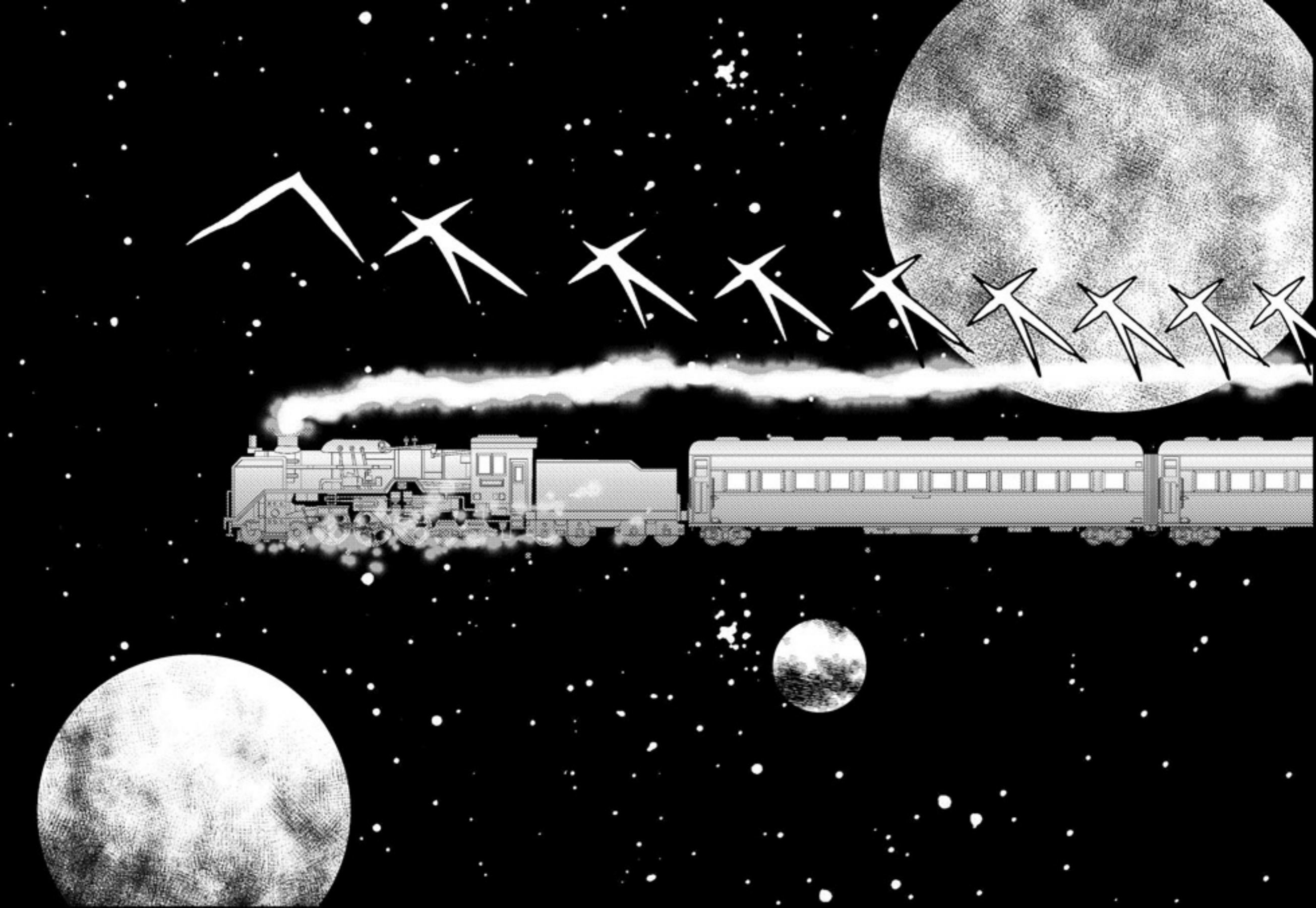


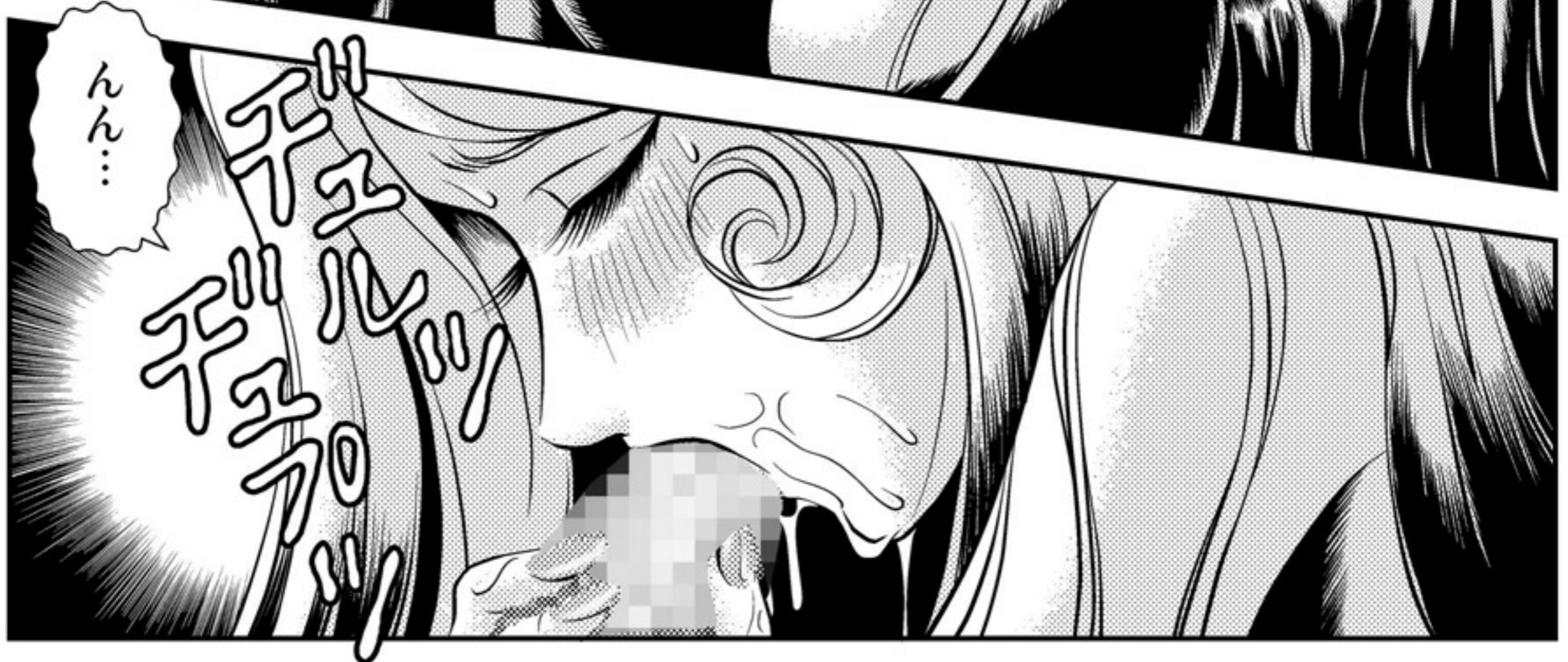
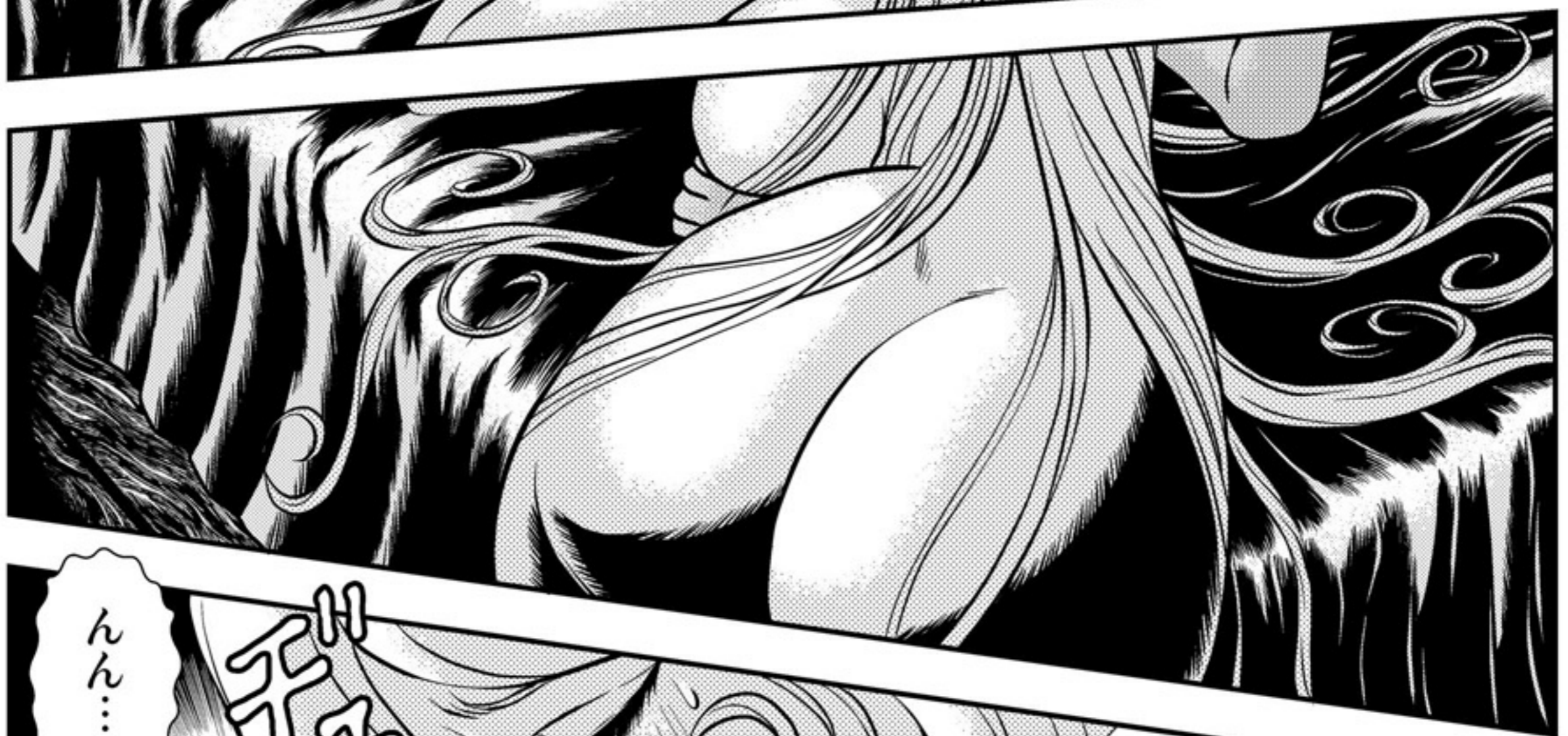
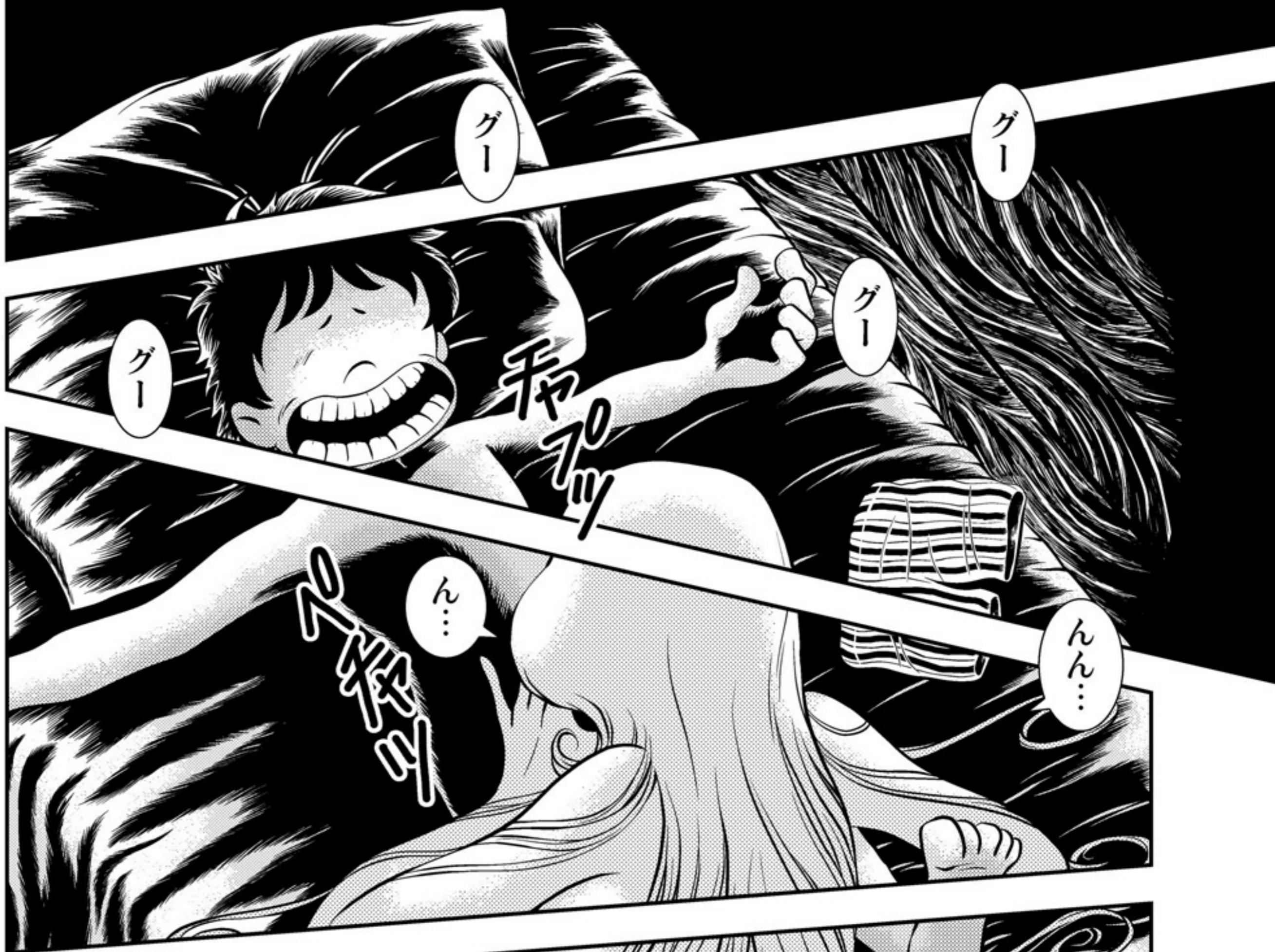
Maetel Story 8

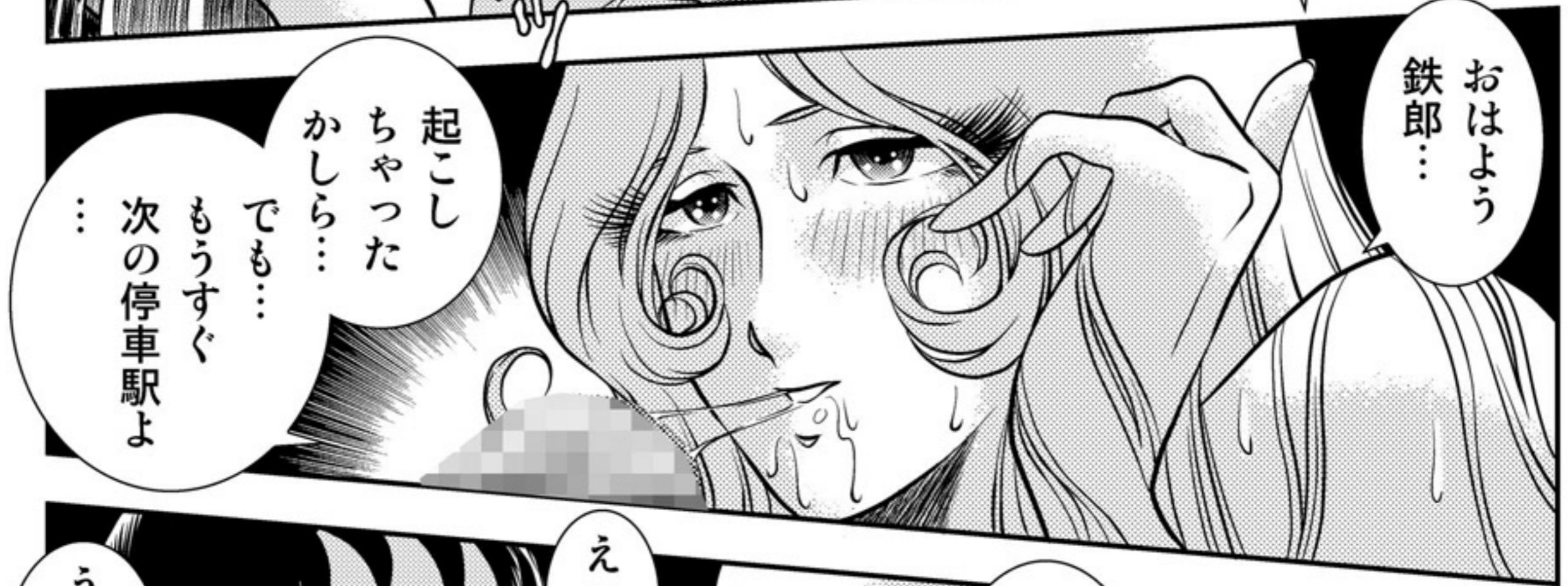
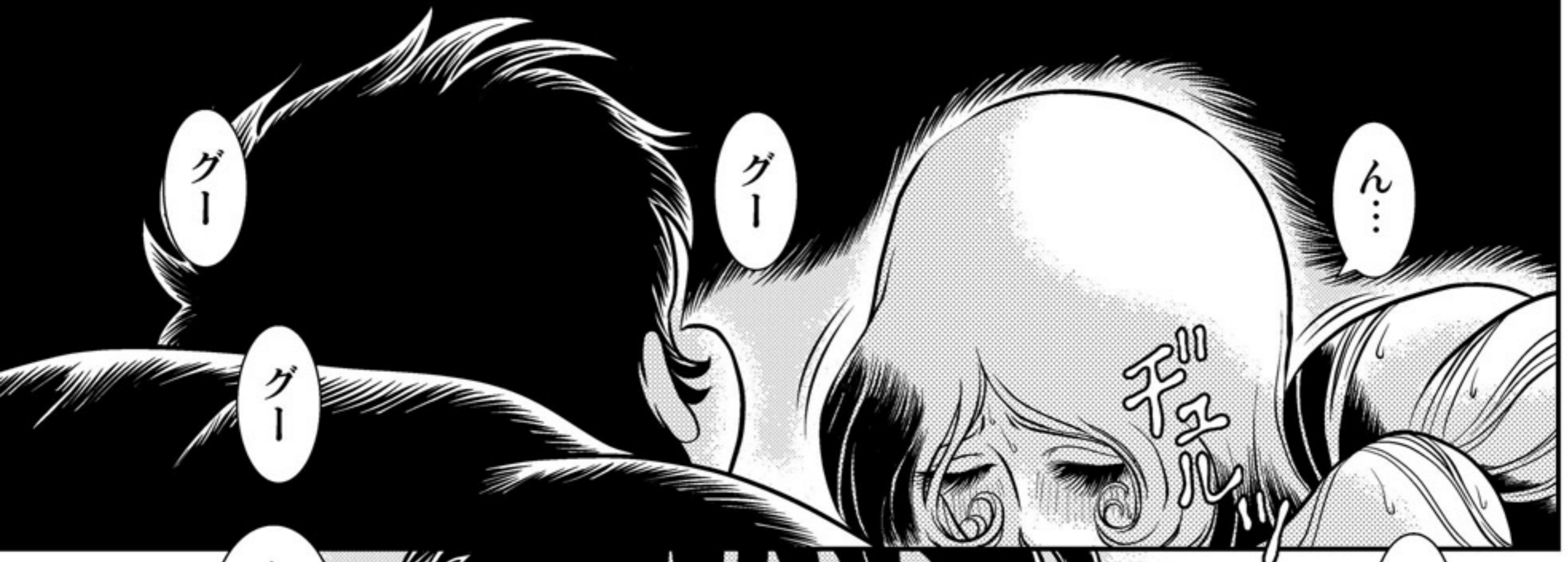
from GALAXY EXPRESS 999 with Love.











ううっ…!!

ららのよ
出てても…

朝一番の…
濃いザーメンを

たっぷり…
飲ませてね…

ンツ!!

すごい量…
どンドン
溢れてくるわ
…!!

濃いわあ…
おいしい…

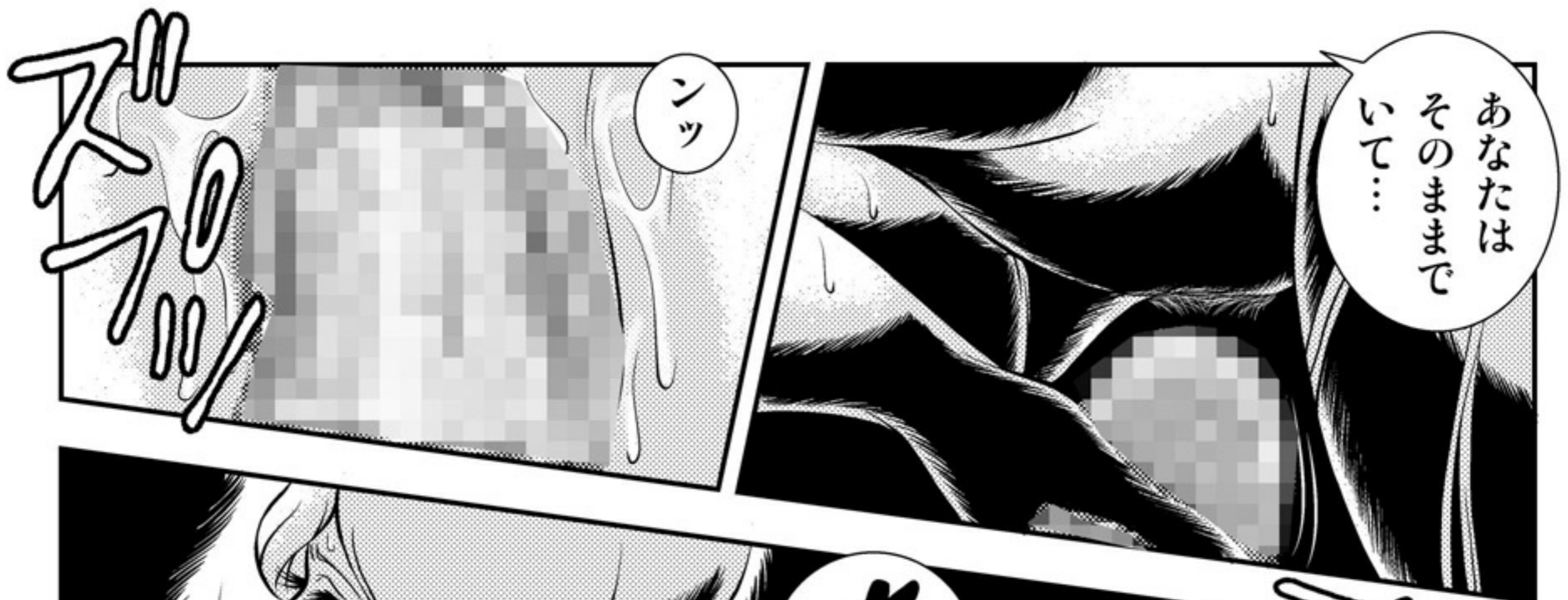
頭が…しびれるツ
何て…刺激的な
味なのかしら…

鉄郎のザーメンは
格別の味だわ…

さあ…
モーニングフエラ
が終わったら…

ウフフ…

モーニング
セックスよ
鉄郎…



あなたは
そのまま
いて…

ンッ

ズッ
ズッ
ズッ



あ

私が…たつぷり
してあげるわ



アアッ
いいッ…!!

アアンッ

アッ

ズッ
ズッ
ズッ

ンッ



アーンツ

ズンズンズン

ハア
いいわっ
鉄郎ツ…!!

ハア
ああっ
いいツ…!!

ハア
ハア

ハア

ハア

アッ

アアーンツ
ステキよ…
鉄郎ツ!!

とっても
いいのツ!!

ハアーン

ンツ

ハッ
ハッ

メーテル…

あなたと…
こうしてる時が
一番幸せよ…

ズンズンズン



祝祝祝

アアンツ

ハツ

イクウ~~~~!!

アアツ

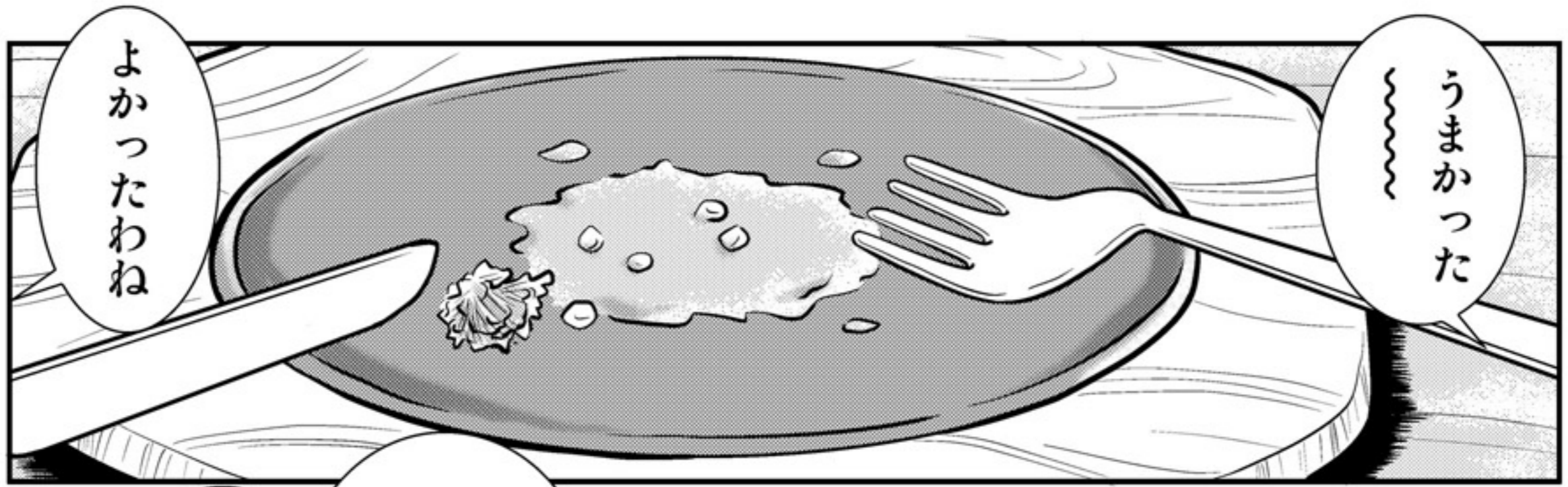
うう...
メーテル...

な...^{なか}腔内...
たっぷりと
出してちようだいッ

ハツ

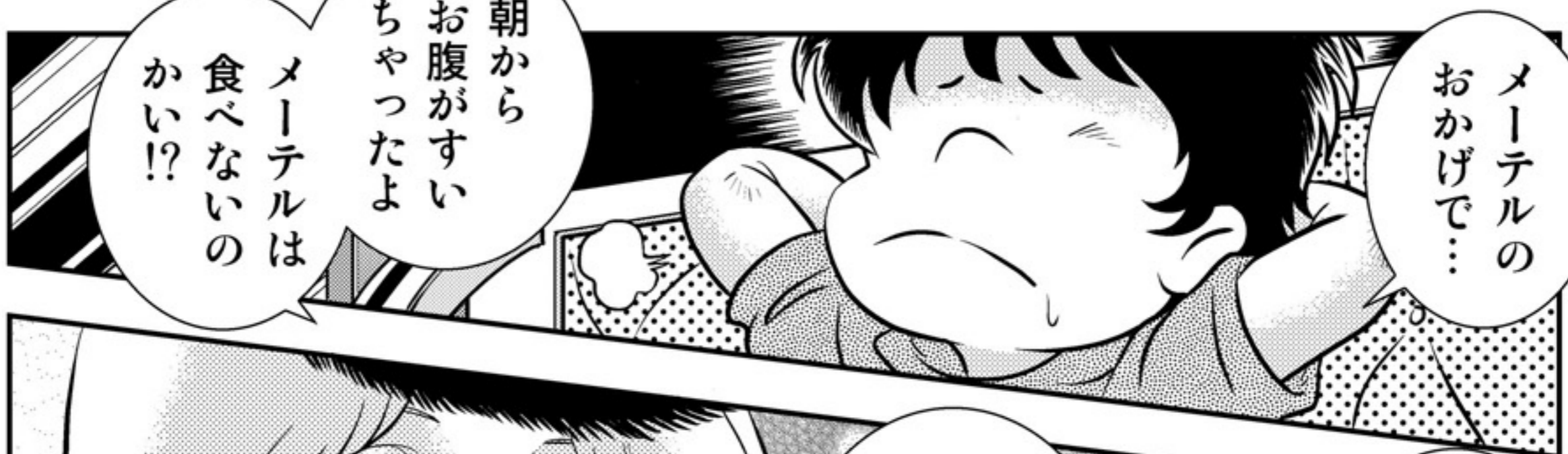
カッ
カッ
カッ
カッ

ズ
ズ
ズ
ズ



よかったわね

うまかった
~~~~~



メーテルのおかげで…

朝からお腹がすいちやっただよ

メーテルは食べないのかい!?



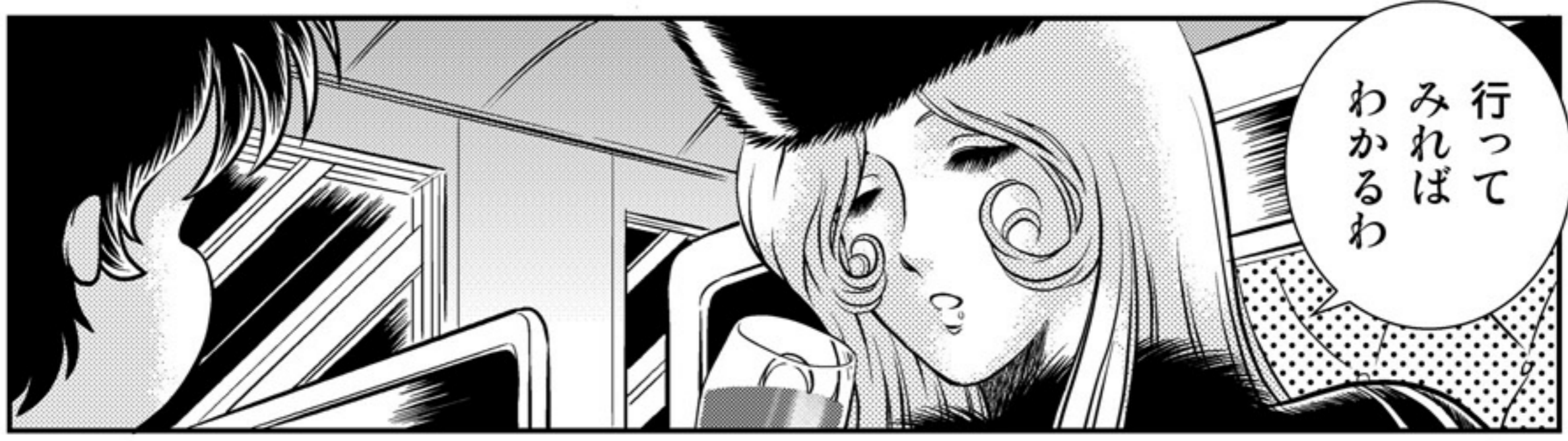
もお…  
鉄郎ったら…  
いやだわ…

私は…  
鉄郎ので…お腹  
いっぱいだから  
いらないわ…

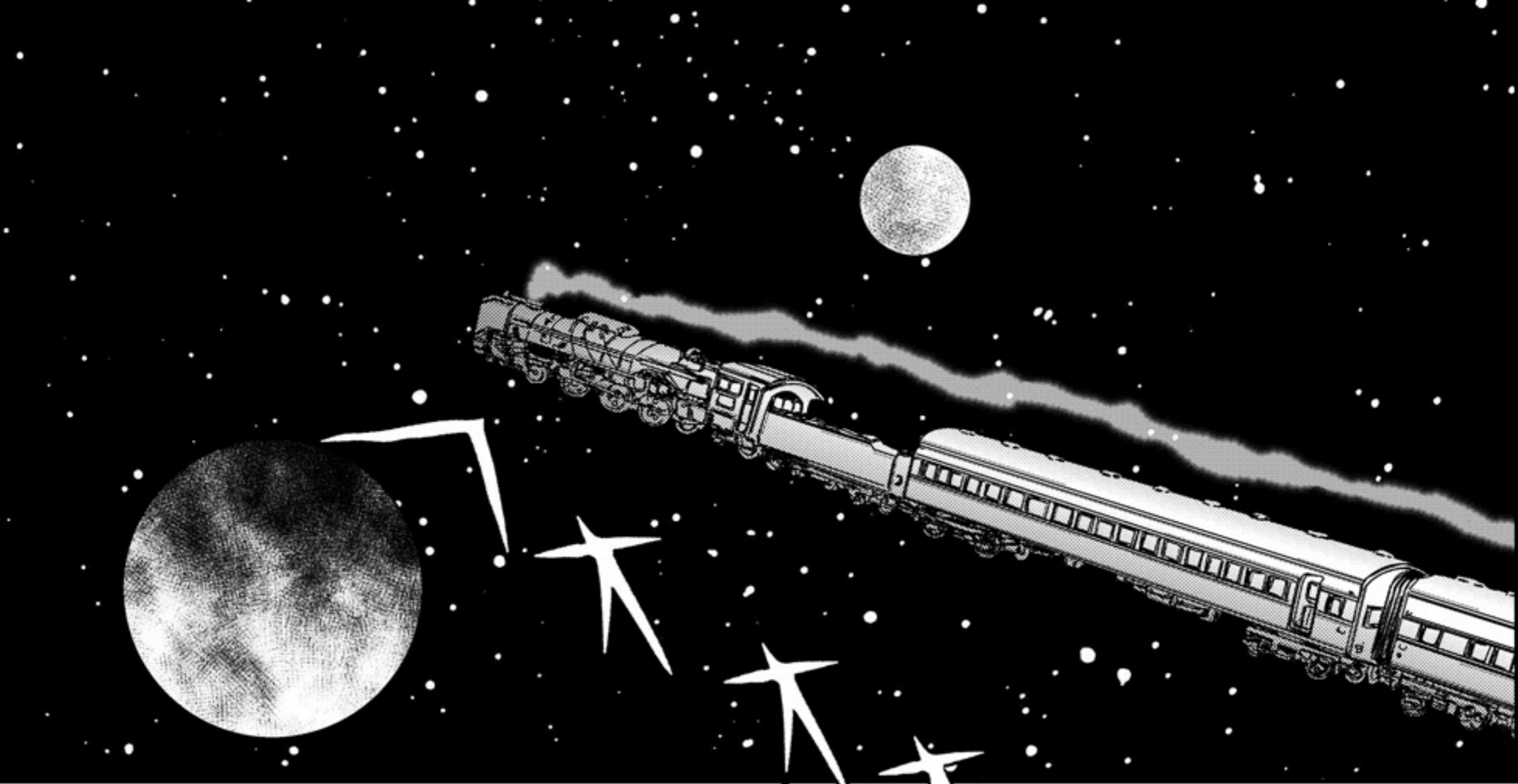


え〜〜こほん…  
次の停車駅は  
「底なし都市」…

「底なし都市」!?  
変な名だねえ…



行って  
みれば  
わかるわ



「底のない都市」  
と呼ばれてるの…

一番下がどこら  
へんにあるのか  
わからないから

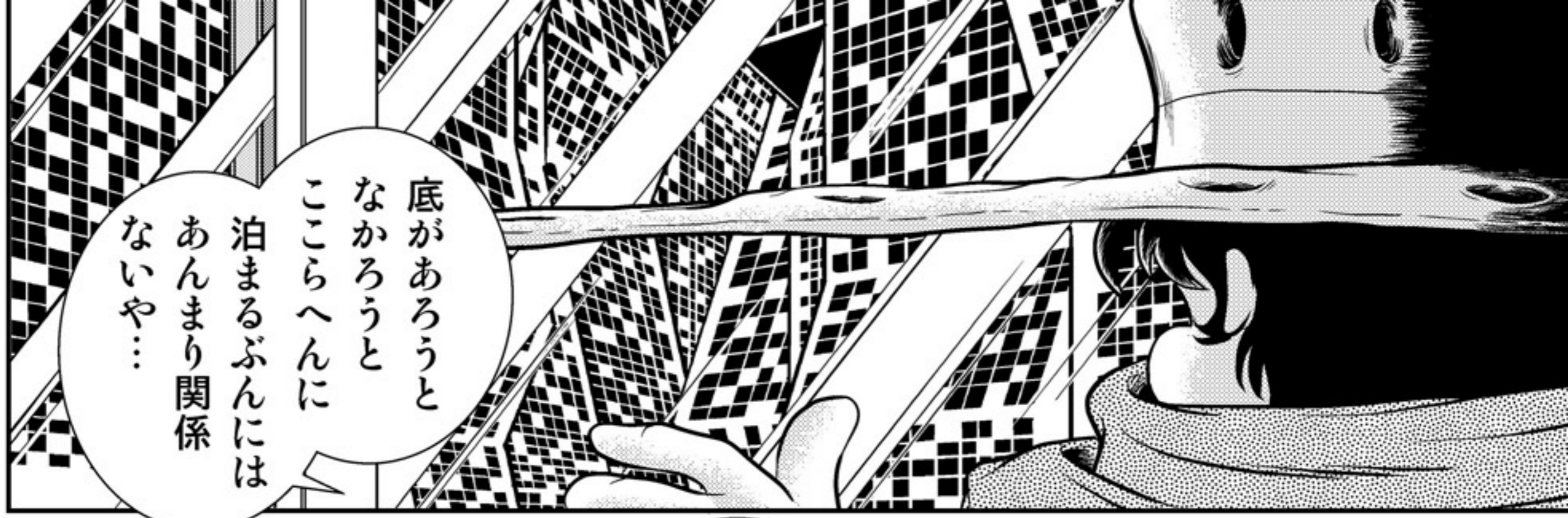
ひやく々  
なるほど  
この都市は…



建物だけが  
四方八方へ向かって  
建ってるだけで…

もしかしたら  
星なんて全くない  
のかもしれないわ

いったい  
どうなって  
いるんだい!?



底があらうと  
なからうと  
ここらへんに  
泊まるぶんには  
あんまり関係  
ないや…



ひとつだけ  
ご注意申し  
上げます

間違っても  
エレベーター  
には…

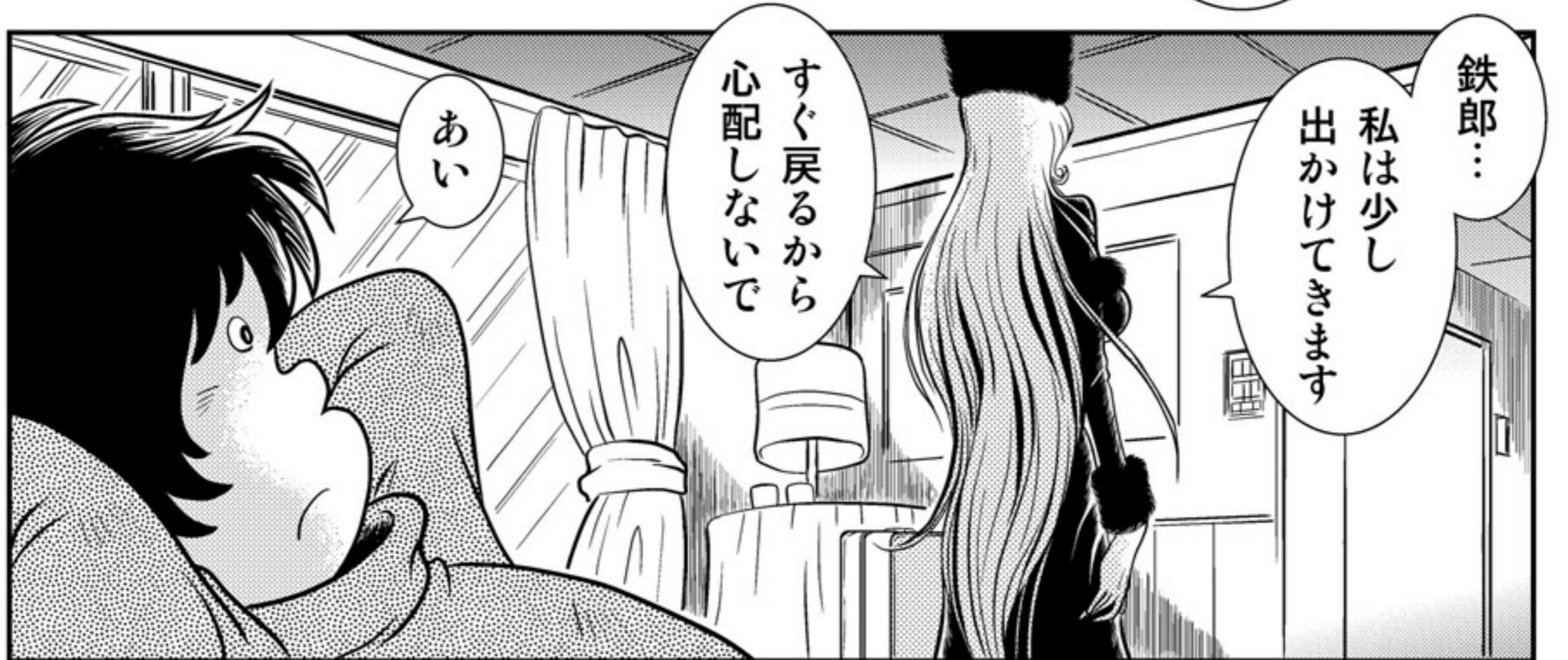
お乗りにな  
らないで  
ください…

どーして!?



この  
エレベーター  
はどこへ行くか  
わからない  
ので有名  
なのです

は〜ん



鉄郎…  
私は少し  
出かけてきます

すぐ戻るから  
心配しないで

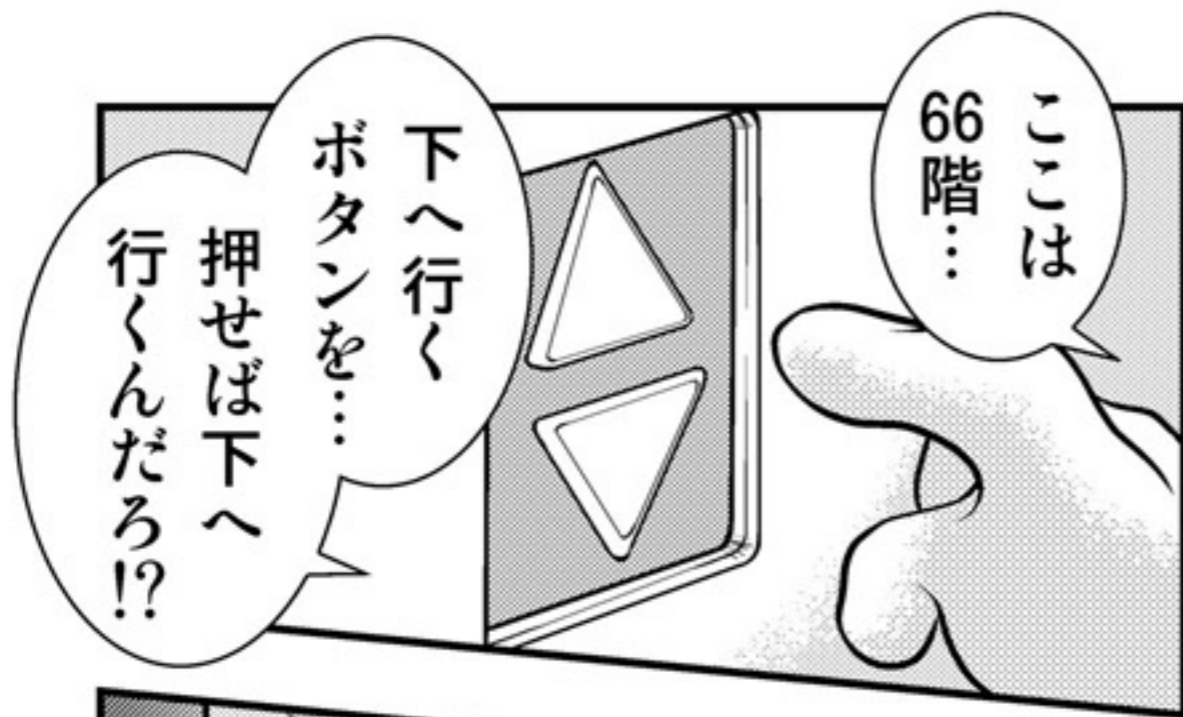
あい



ひと寝いり  
したら…  
ゆっくり  
この星を見物  
しよう

グー

グー



ここは  
66階…

下へ行く  
ボタンを…

押せば下へ  
行くんだろ!?



は〜ん  
売店は12階…

またしても  
腹がへって  
目がさめたらば  
メーテルは  
いない…か…



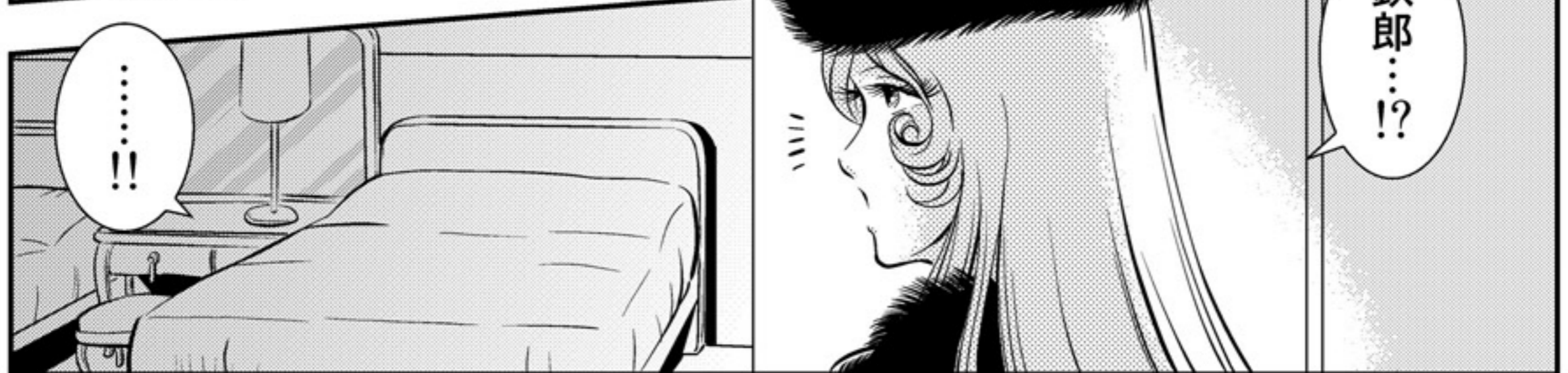
ちがう  
かしらん

…



鉄郎

ただいま…



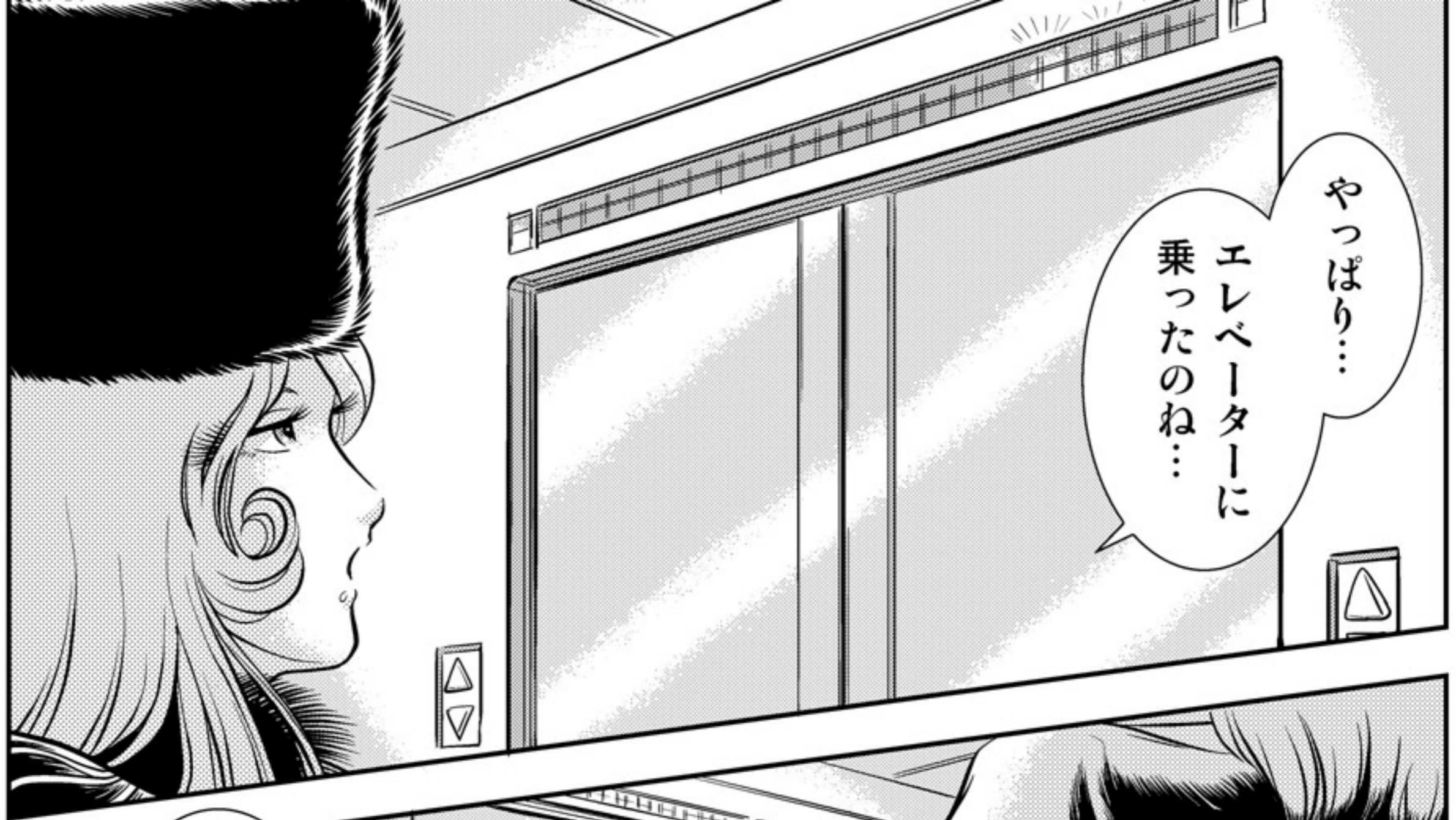
鉄郎…!?

…!!



まさか…  
鉄郎…

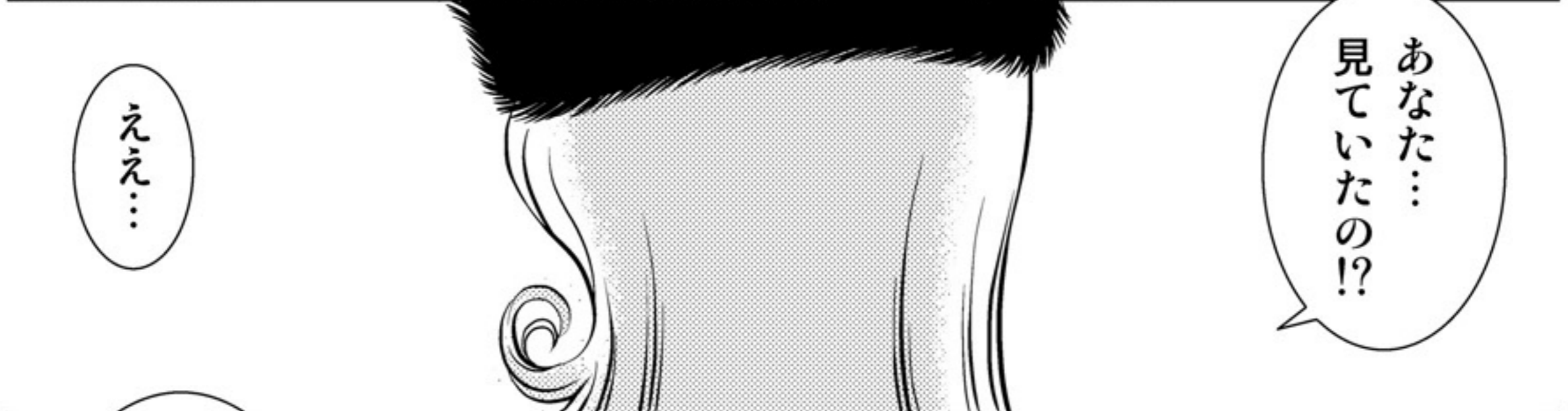
あの…  
エレベーター  
に…



やっぱり…  
エレベーターに  
乗ったのね…

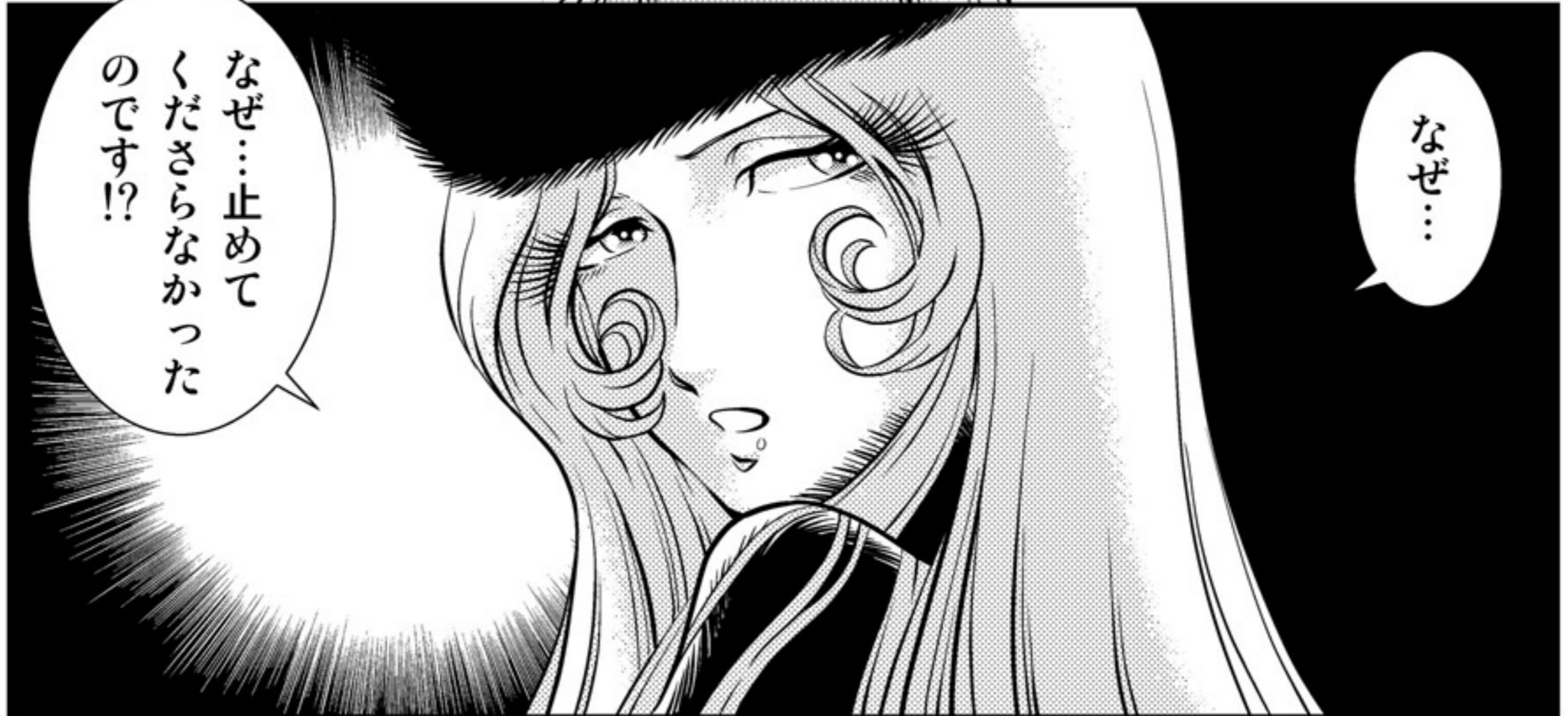


そう…  
たしかに  
乗った…



あなた…  
見ていたの!?

ええ…



なぜ…止めて  
くださらなかった  
のです!?

なぜ…

エレベーターに  
乗ろうとする…

人間を見るのは  
久しぶりだもね

永久に帰って  
こない  
エレベーターに  
乗るのを…

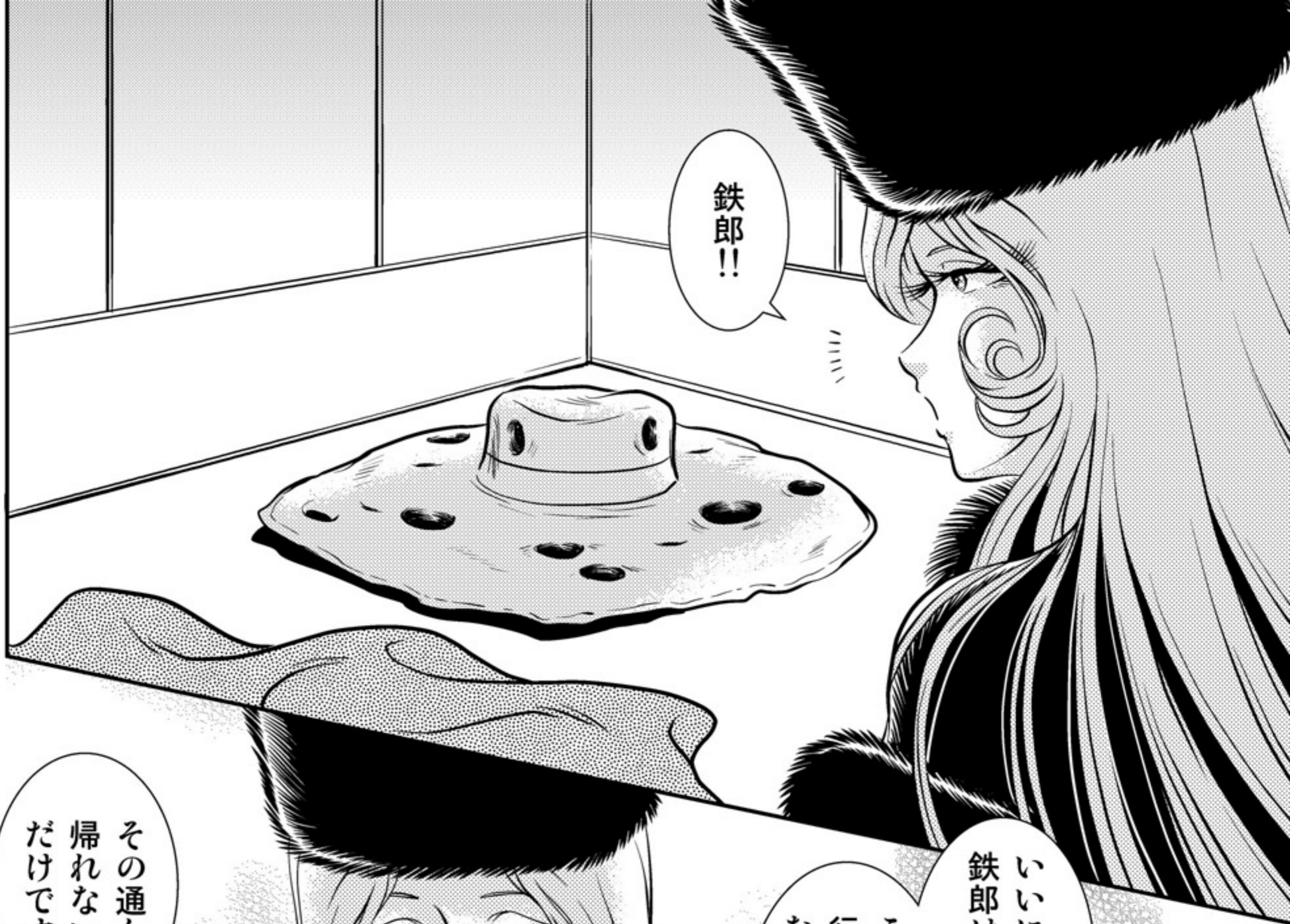
見るのも  
平気だったの  
かしら!?

あなたの  
言葉にひとつ  
まちがいが  
ありますね…

ほら…

エレベーターは  
もどって  
来ましたよ…

!!



鉄郎!!



その通り  
帰れない  
だけです

いいにおい：  
鉄郎はそんなに  
こわい所へ  
行ったわけでも  
なさそうね



あなたは  
鉄郎の行った  
先をご存じ  
なのですね：

もちろん  
知っていますよ



乗りますか!?  
鉄郎くん  
に  
会いたければ

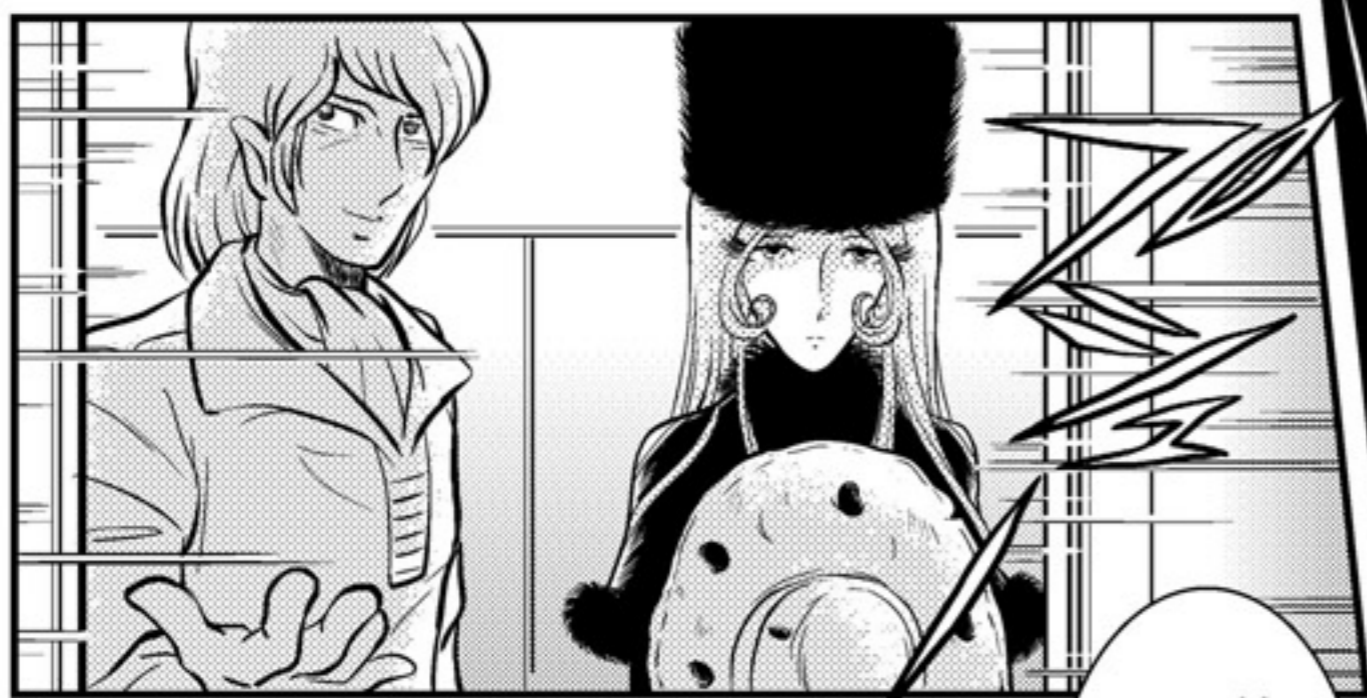
鉄郎がいない所には  
私がある理由が  
ありませんわ：



必ず鉄郎に  
会えますわね

もし…  
会えなかったら!?

あなたは…  
死ぬでしょうね  
キザルーナさん



着きま  
したよ…

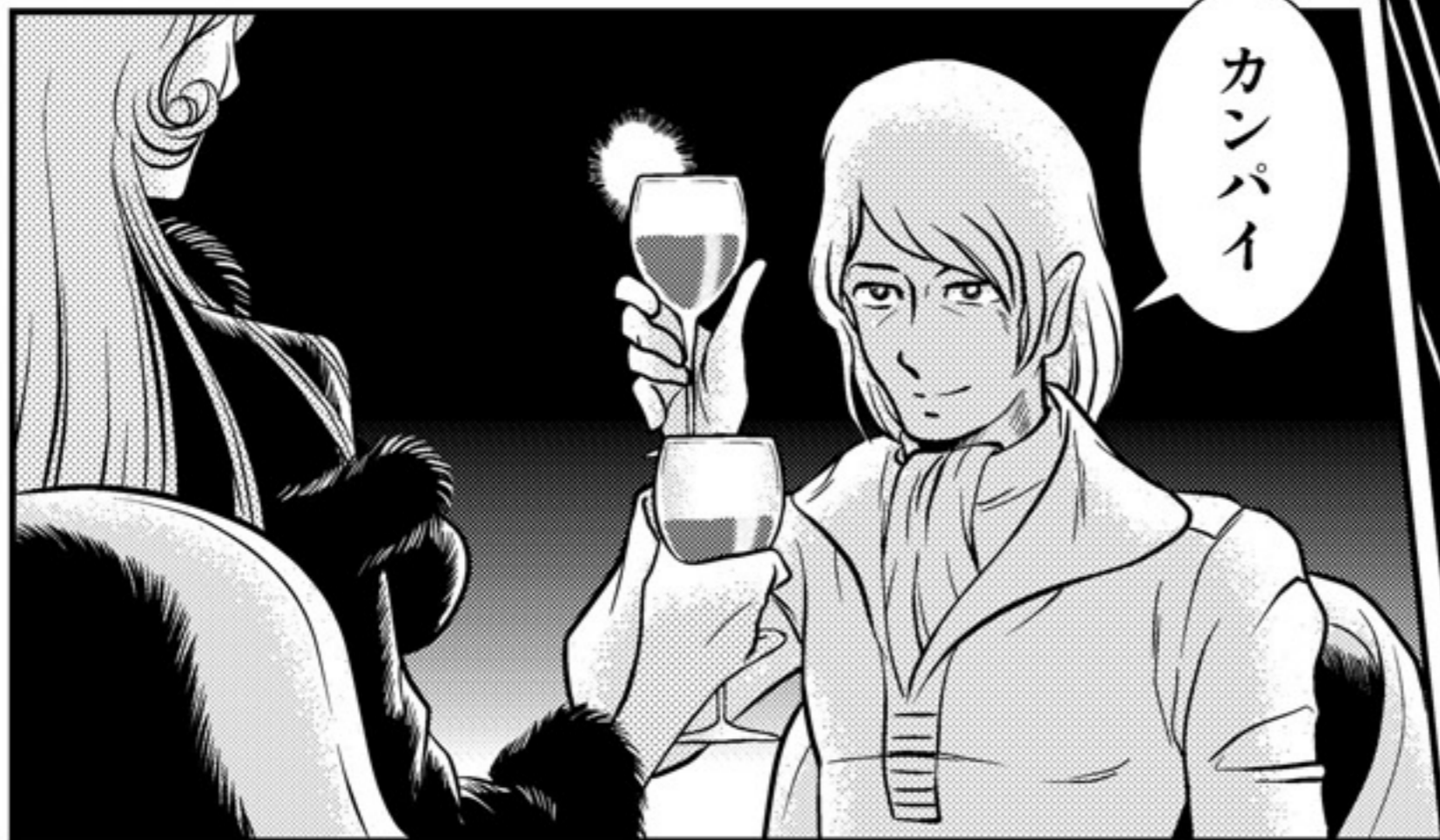
鉄郎は  
どこに…!?



まあ  
いっぱい…

やってからに  
しましょう…

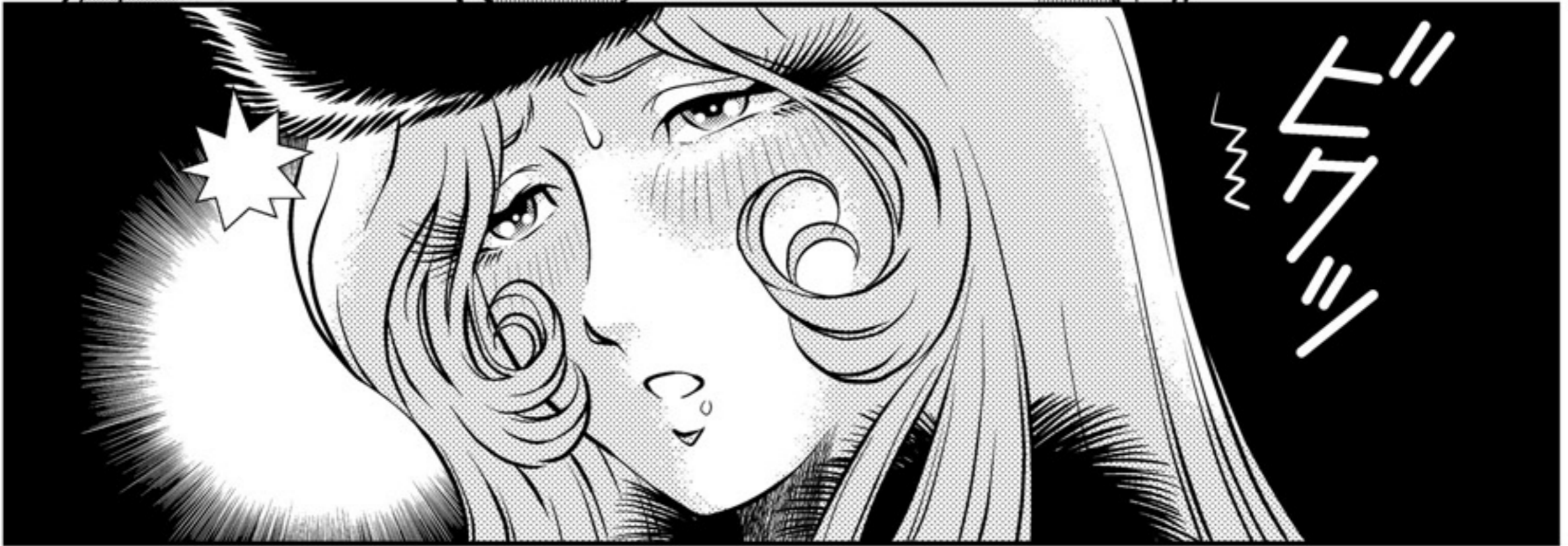
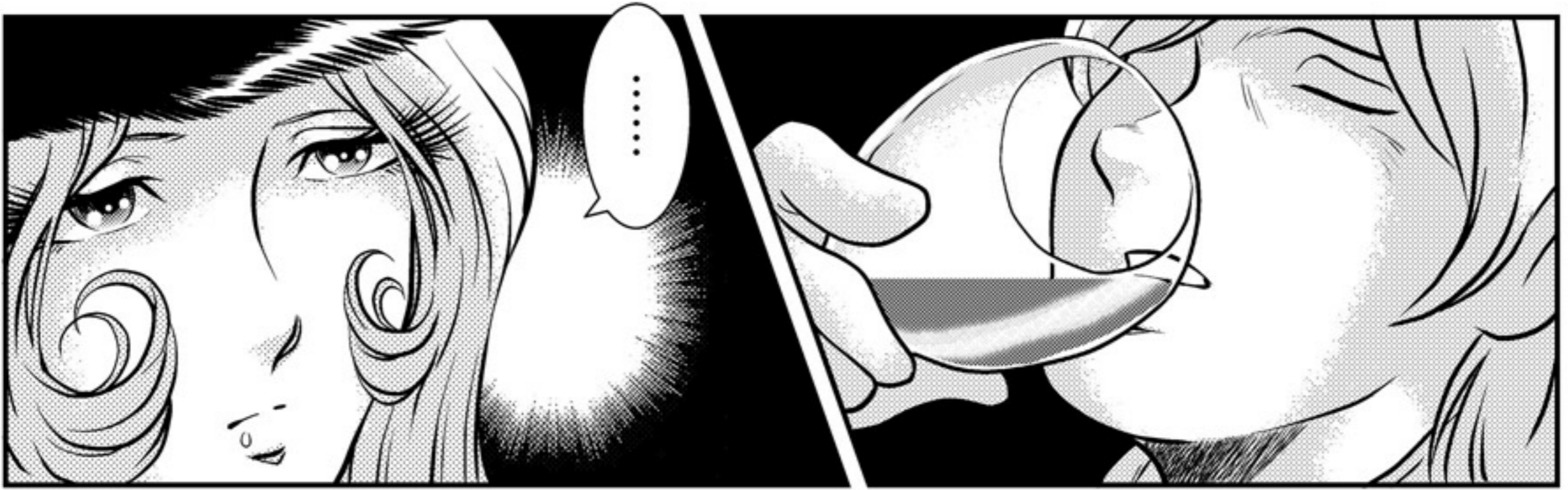
…



カンパイ

冗談ですよ  
冗談…



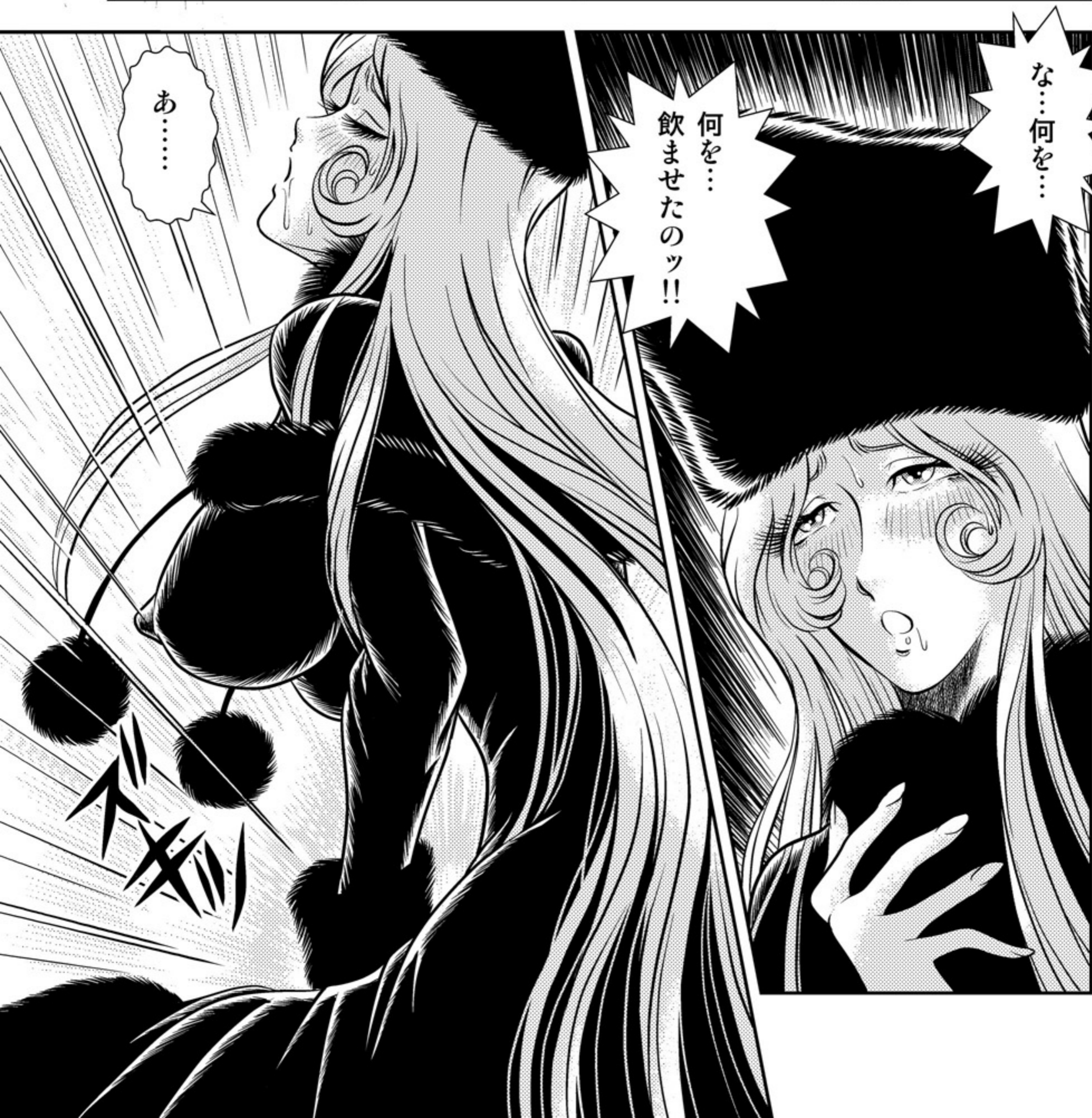




なっ…何なの…!?  
ウ…ウソでしょ…!!

あぁ…あそこが…  
熱いッ…疼く…!!

アハハハ

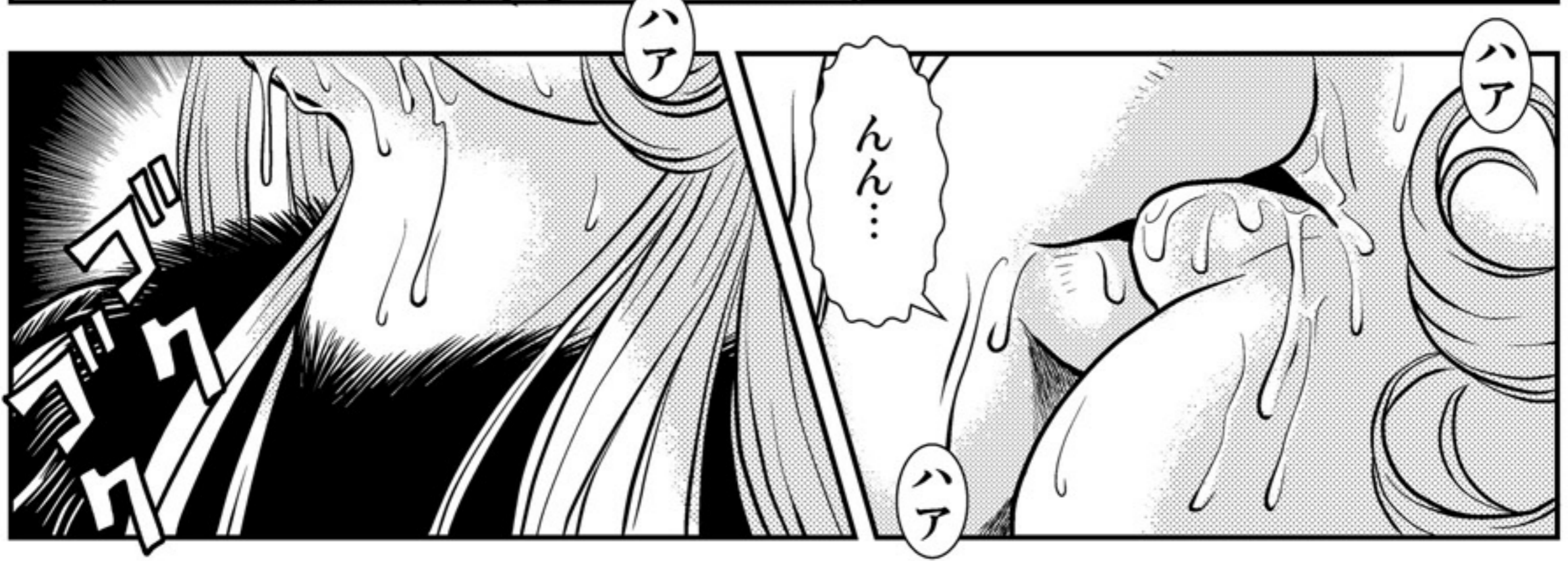
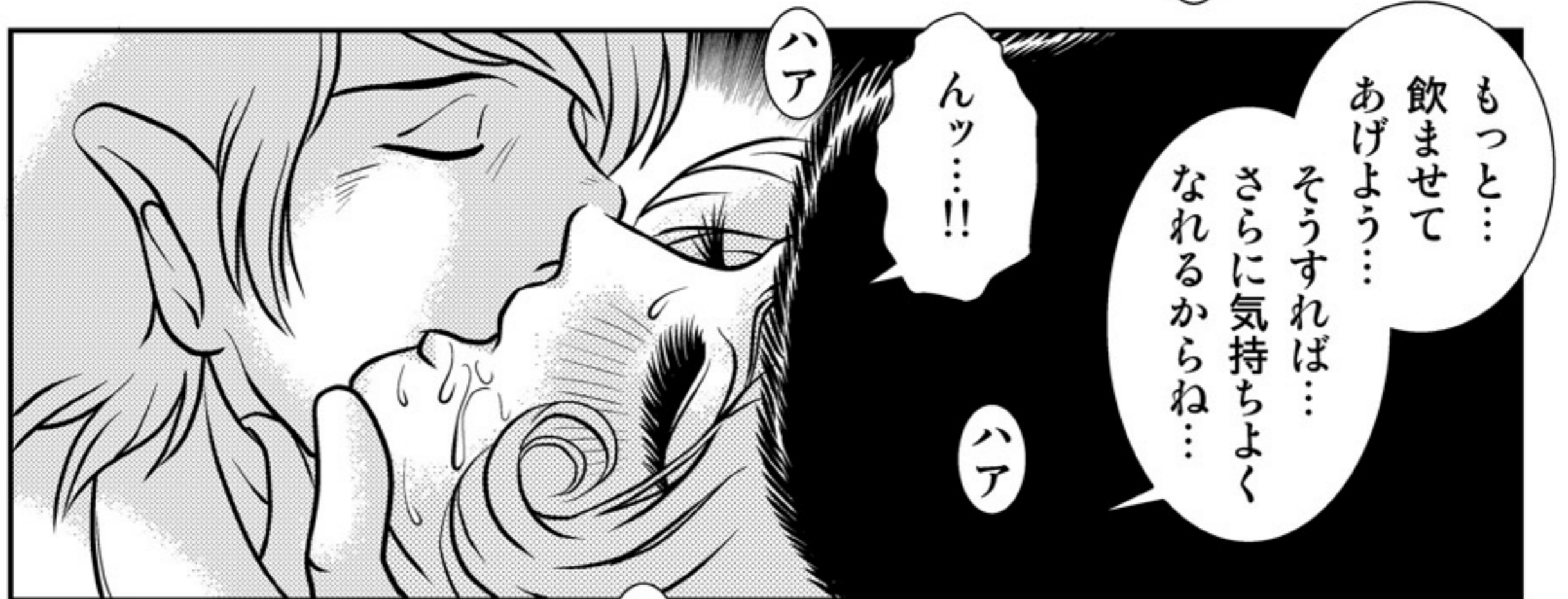
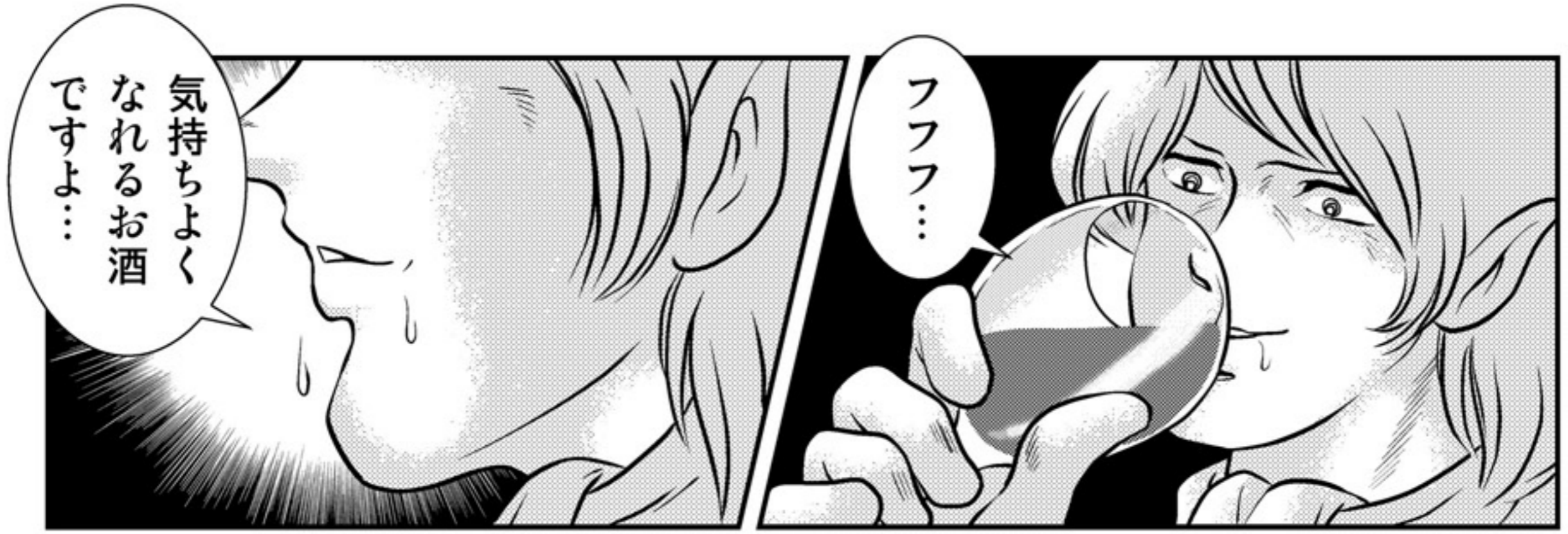


な…何を…

何を…  
飲ませたのッ!!

あ……

アハハハ





ああっ…  
い…いやッ!!

もう…  
飲ませないでッ!!

ハア

ハア

ハア



さあ…  
メーテル…

楽に…  
するんだ…

あ…ああ…  
だ…だめッ

ハア

ハア

ハア

ハア

あ…

ギョウ

イクル

ハア

あ…ああ…  
い…いやッ…

どうしたんだい  
メーテル…!?

ぼくたちは  
恋人同士じゃ  
ないか…

ち…違ッ…

私が…  
愛してるのは

イヤッ

はなしてッ…

わ…私は…  
私は…

ダメッ

だめ…意識が…  
何も…考えられ  
ない…!!

アアッ



さあ：  
キスをしよう

あ：

ん：

メーテル：

あ：

い…いやッ



脚を広げて：

ぼくに：  
見せておくれ  
メーテル：

やめてッ…

あ…ああ…

い…いやッ

は…恥ずか  
しいわ…!!

ああ…

何もかも  
忘れて…

アアンツ…

ガクガク

ミンツ

ヒツ!!

楽しもう  
じゃないか

あ…ああ…  
そ…そんなツ…!!

アツ

フフフ…  
メートルは  
すごく感じ  
やすいんだね

ダメツ

もう…  
グチヨグチヨ  
だよ…

アツ

グチヨグチヨ

イ…イヤツ  
やめて…!!



フフフ…  
こんなに  
大きく  
しちやって

キエッ

たっぷり  
可愛がって  
あげるよ…

ハア

ヒイツ

ハア

ンツ…

ああ…  
キザルーナ…

メーテル  
愛してるよ  
…

ハア

ヒリッ  
ヒリッ

ああ…

ハア

ダ…ダメツ  
よしてツ…

チエッ

ハア

あ…ああ…  
あふうん…

ハア

ハア



ハア

ハア

アーン……ああ……  
あ……ああふん……

ああ……だ……だめツ!!  
そんなに……されたら……

ハア  
ハア

ハア

ああ……ダメツ……  
狂っちゃうツ!!

ハア

アーンツ

ハア

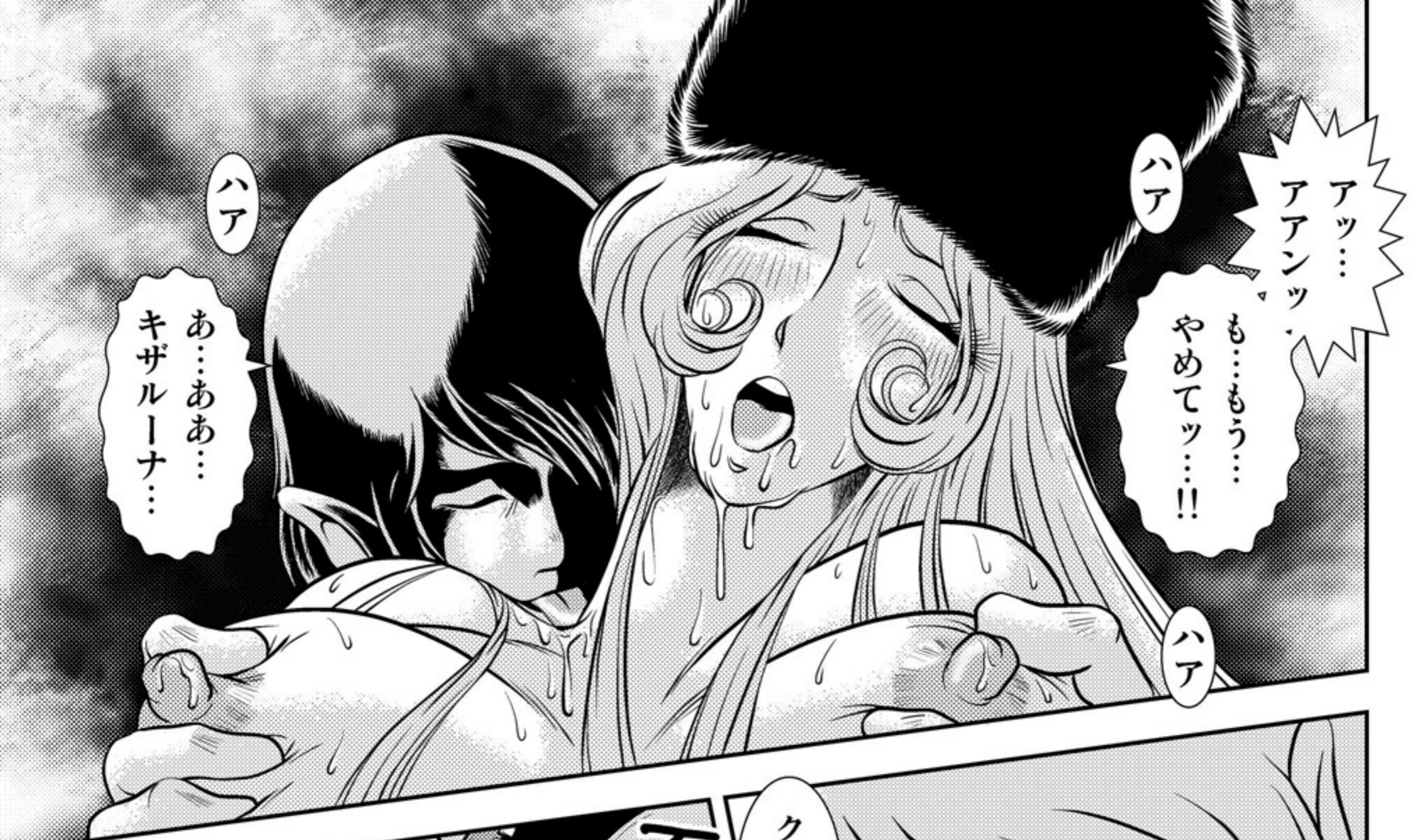
ああん

ハア

アーンツ

ハア  
ハア

ヒツ



ハア

あ…ああ…  
キザルーナ…

ハア

アッ…  
アアンツ…  
も…もう…  
やめてッ…!!

ハア



ククク…



ハア

ハア



ああ…  
すごい…

さあ…  
今度は  
ぼくを

気持ち  
よくして  
ほしいな

は…はい

ハッ  
ハッ  
ハッ

チエ  
チエ  
チエ

んん…!!

そう…  
うまいよ…  
メートル…

その調子で  
しゃぶるんだ…

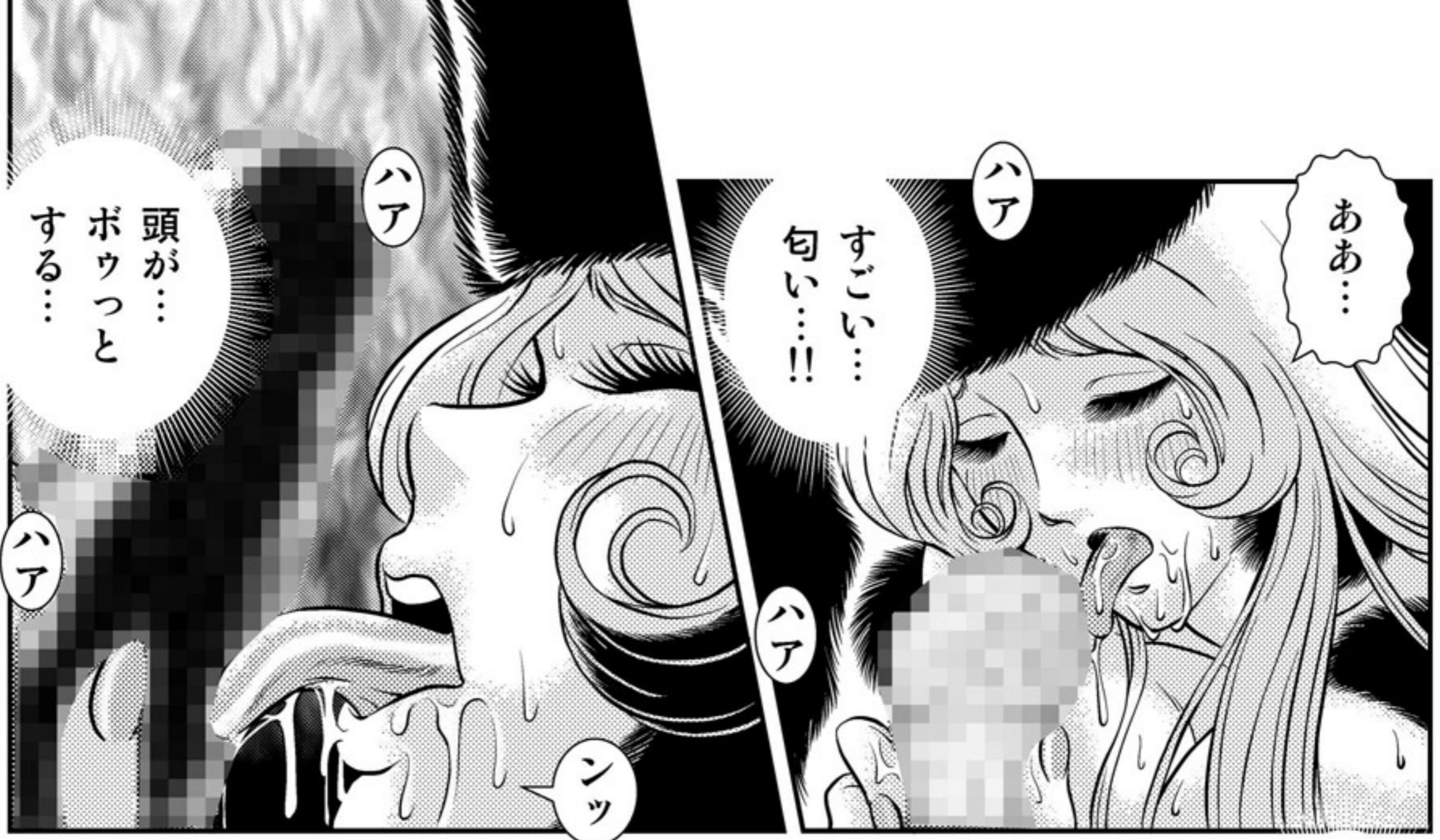
チエ  
チエ  
チエ

チエ  
チエ  
チエ

チエ  
チエ  
チエ

チエ  
チエ  
チエ

アフィン…



頭が...  
ポウっと  
する...

ハア

ハア

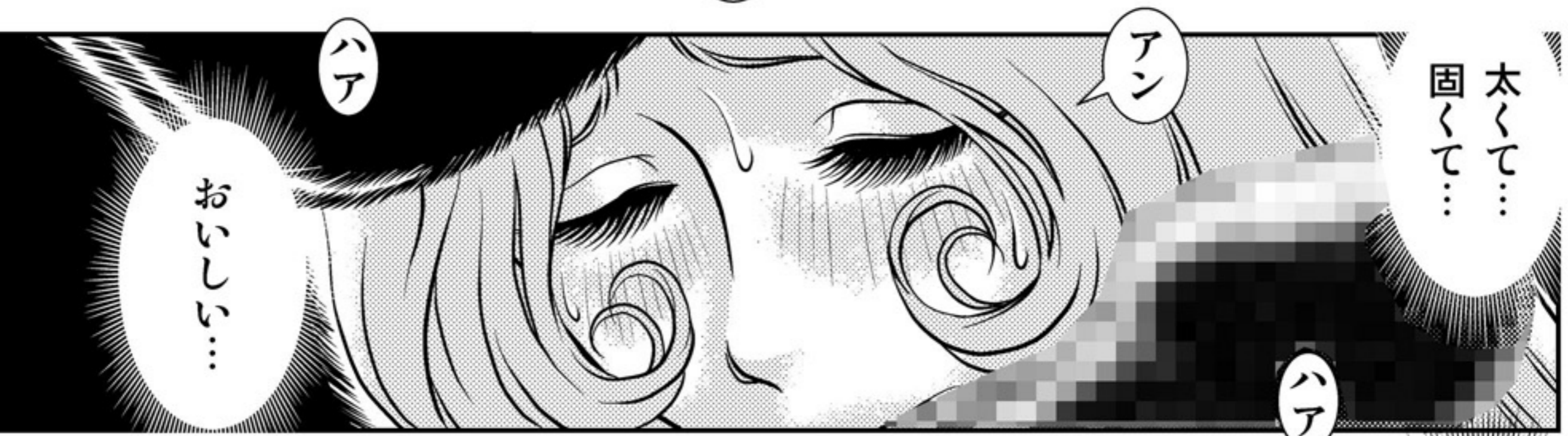
ああ...

すごい...  
匂い...!!

ハア

ンッ

ハア



ハア

アッ

太くて...  
固くて...

おいし...

ハア



ハア

ダ...  
ダメツ...

気が変に...  
なりそうツ!!

も...  
もう...

欲しいツ!!

ハア

ンフッ

ハア





ハア

さあ…  
メーテル…

たっぷり  
味あわせて  
あげよう…

ハア

ああ…

ハア

欲しいのよツ!!

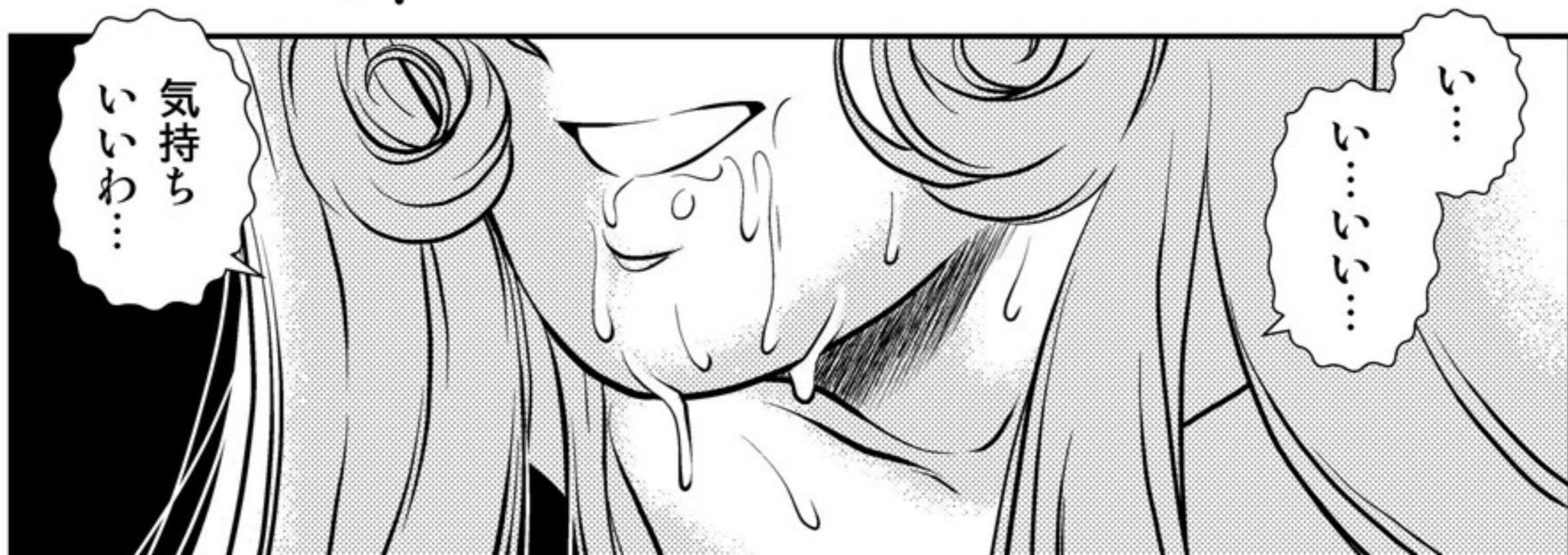
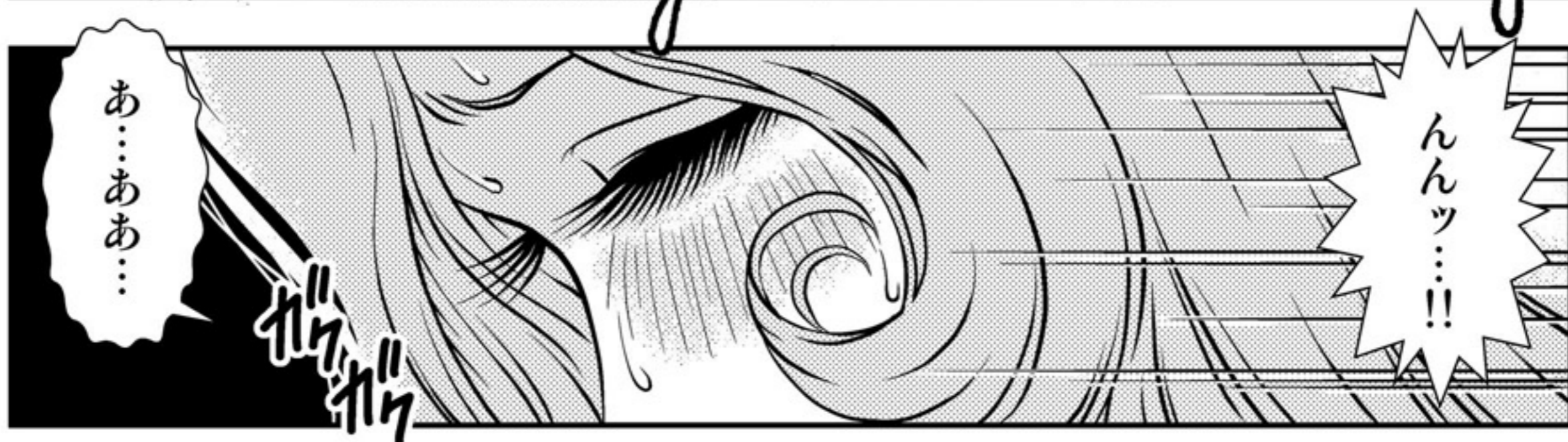
ハア

ああ…  
は…早くツ  
イかせてツ

ハア

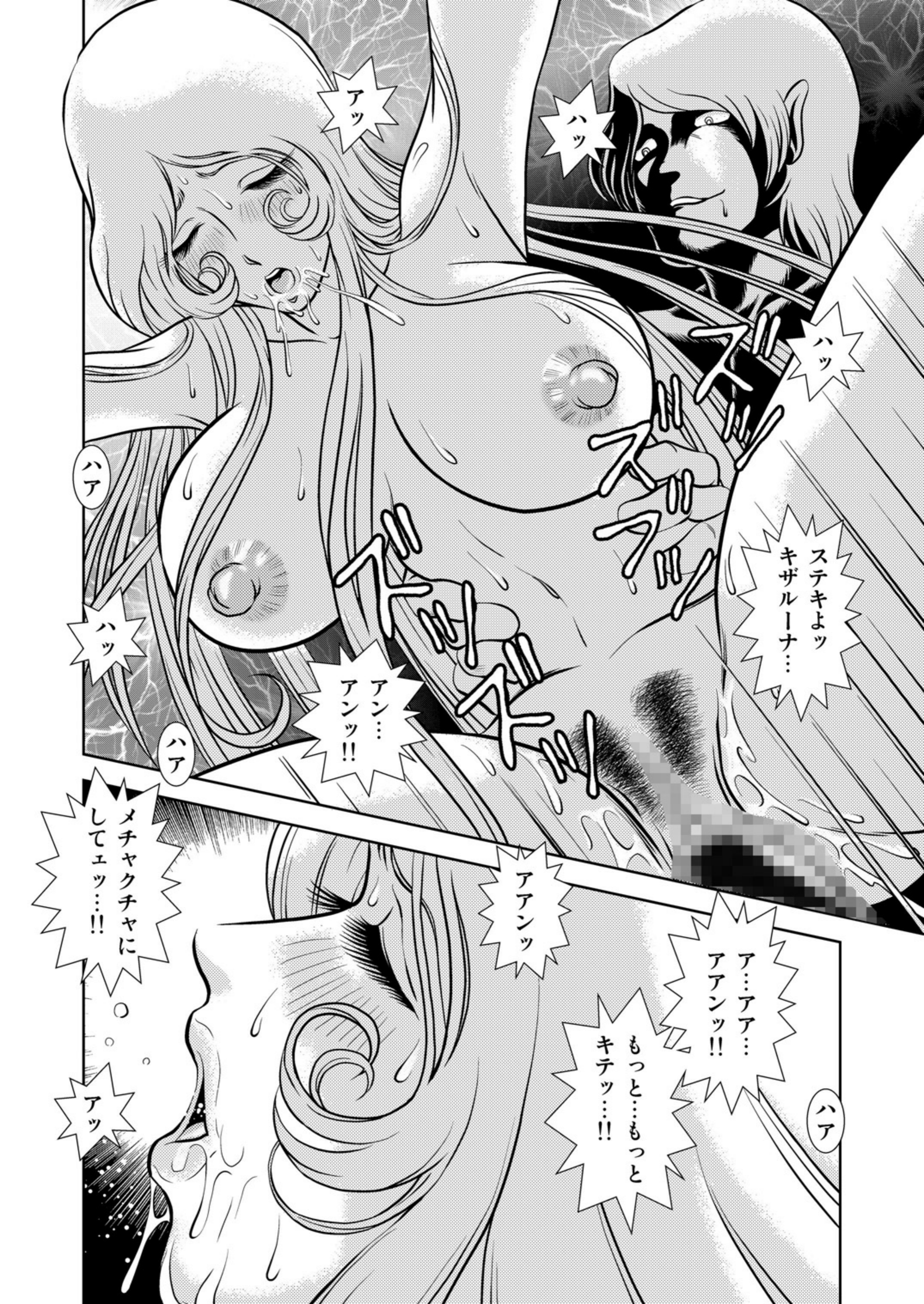
我慢…  
できないのツ!!

キザルーナ…  
早く…早く…  
入れてツ…!!









アッ

ハッ

ハッ

ハア

ステキよッ  
キザルーナ：

ハッ

アン…  
アンツ!!

ハア

メチャクチャに  
してエツ…!!

アアンツ

ア…アア…  
アアンツ!!

もつと…もつと  
キテツ…!!

ハア

アッ



アッ

んッ

す…凄いいッ  
い…いいッ!!

んッ

アフツ…  
アアンツ…!!

お…奥まで…  
届いてるッ!!

キザルーナ…  
好きッ…好きッ…  
愛してるッ!!

アンツ…  
アンツ!!

ヒイツ

≡//  
≡//  
≡//  
≡//

マッ  
マッ  
マッ  
マッ  
マッ  
マッ  
マッ  
マッ  
マッ  
マッ

ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ  
ズ

≡//  
≡//  
≡//  
≡//

アーンツ

さすが…  
宇宙一の名器と

いわれるだけの  
ことはある…

たまらない  
熟れぐあいと  
締まりだ…

腰使いも  
絶品だぜ…

うう…しかし  
こいつは…

何て…  
気持ちよさ  
だ…

も…  
もう…

アアーンツ

あ…ああ…  
な…膣内…  
出してえエツ

クツ

メートル…  
出すぞツ!!

ウツ

アーンツ

ンツ

アツ

ンツ

ハツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

ンツ

アッ

あおおオ…  
いッ…イクッ

イクウツ…!!

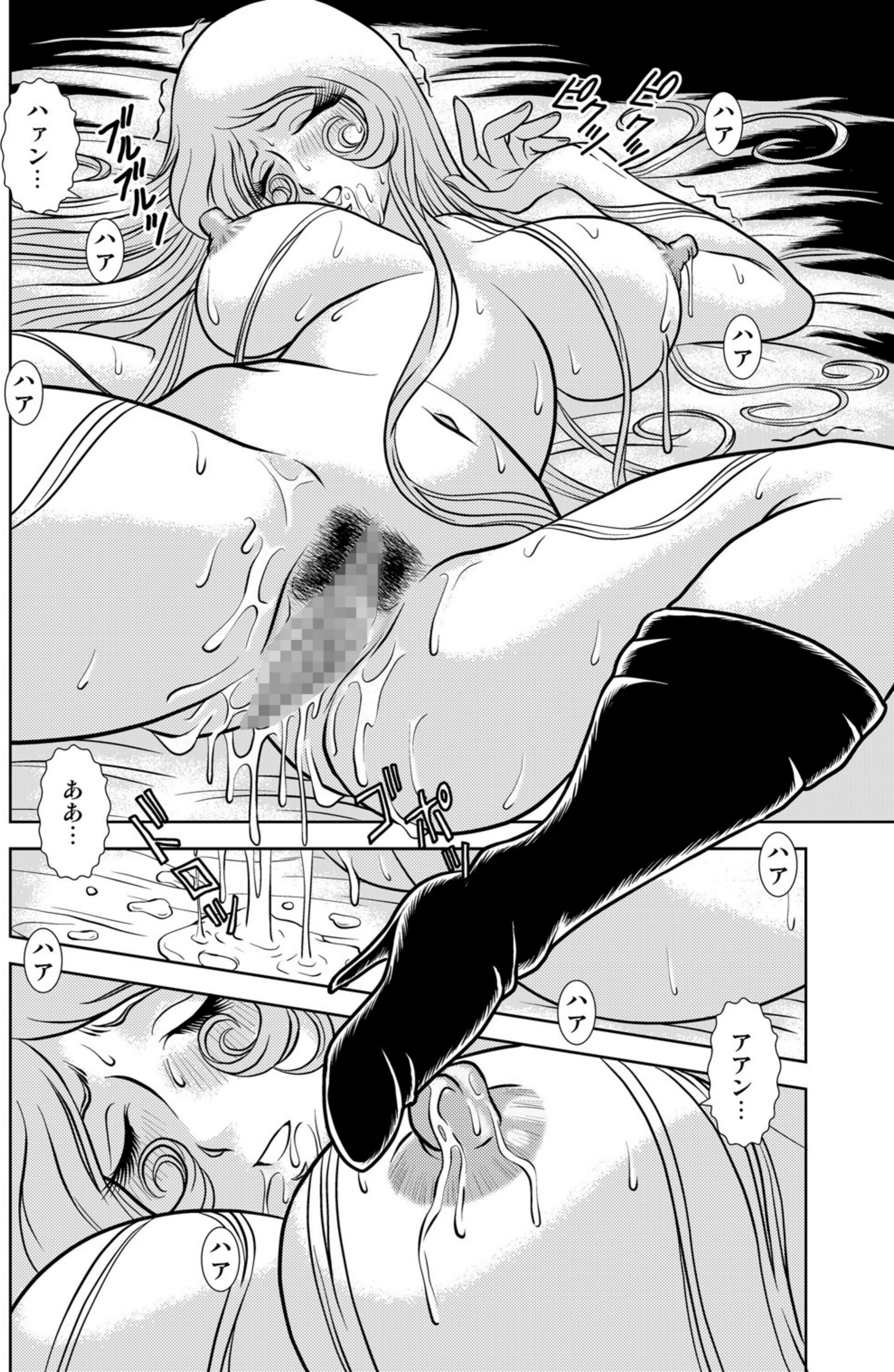
あッ…イヤ…いッ  
アアッ…いッいい…!!

ヒイッ…

アンッ

奥まで…  
来てるウツ…

黒



ハアン…

ブルブル

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ああ…

ハア

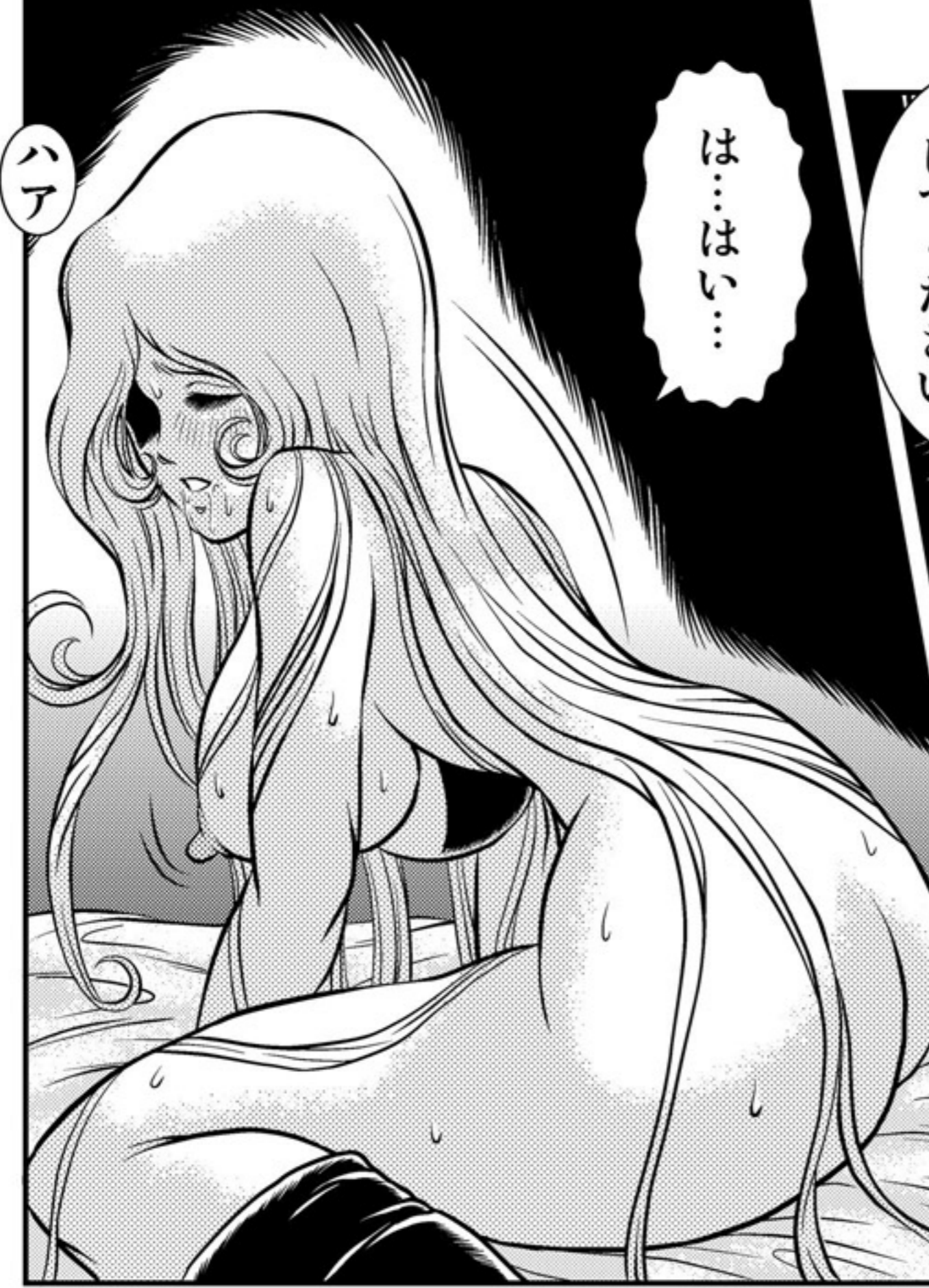
ハア

ハア

ハア

アアン…

ハア



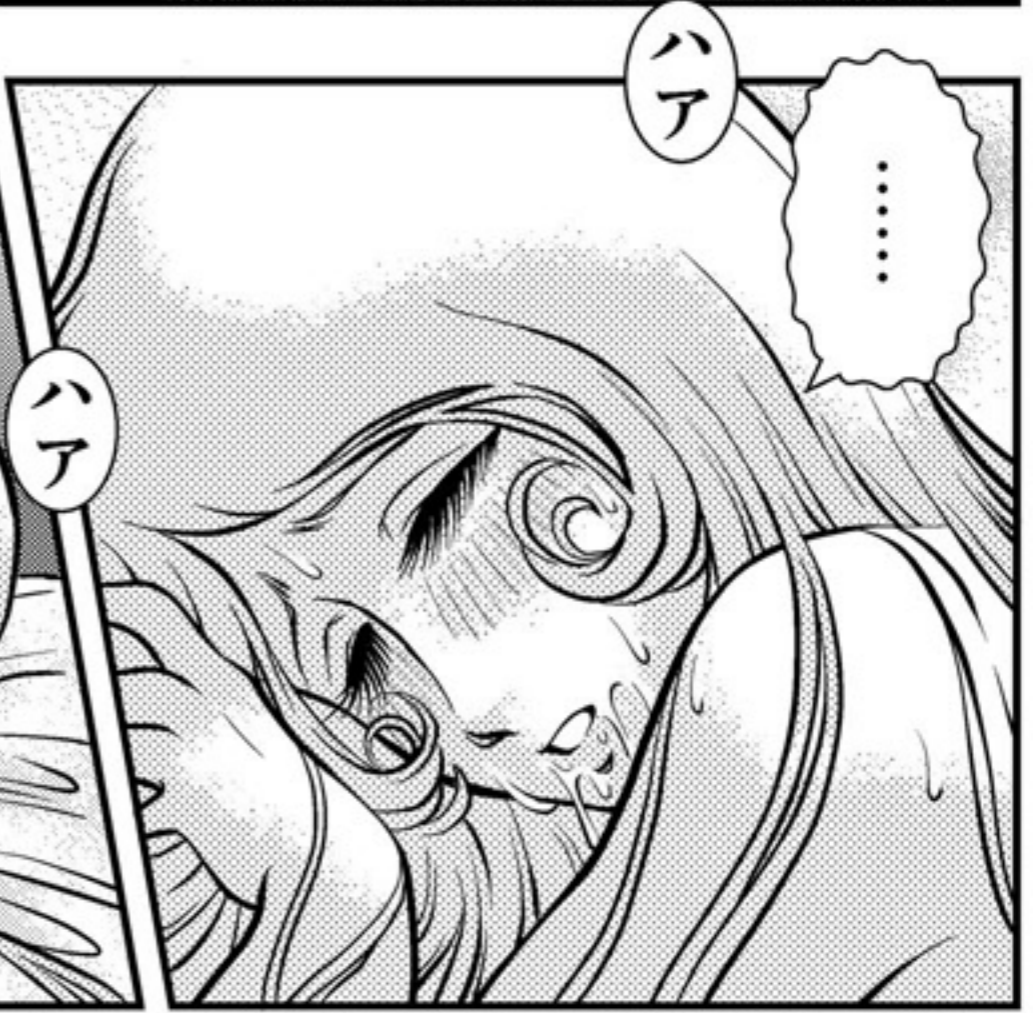
ハア

は...はい...



さあ...  
メートル

後始末を  
してください



ハア

...

ハア



ハア

ああ...

ハア



す...すごい...  
まだ...  
こんなに...

ズルッ

ん...



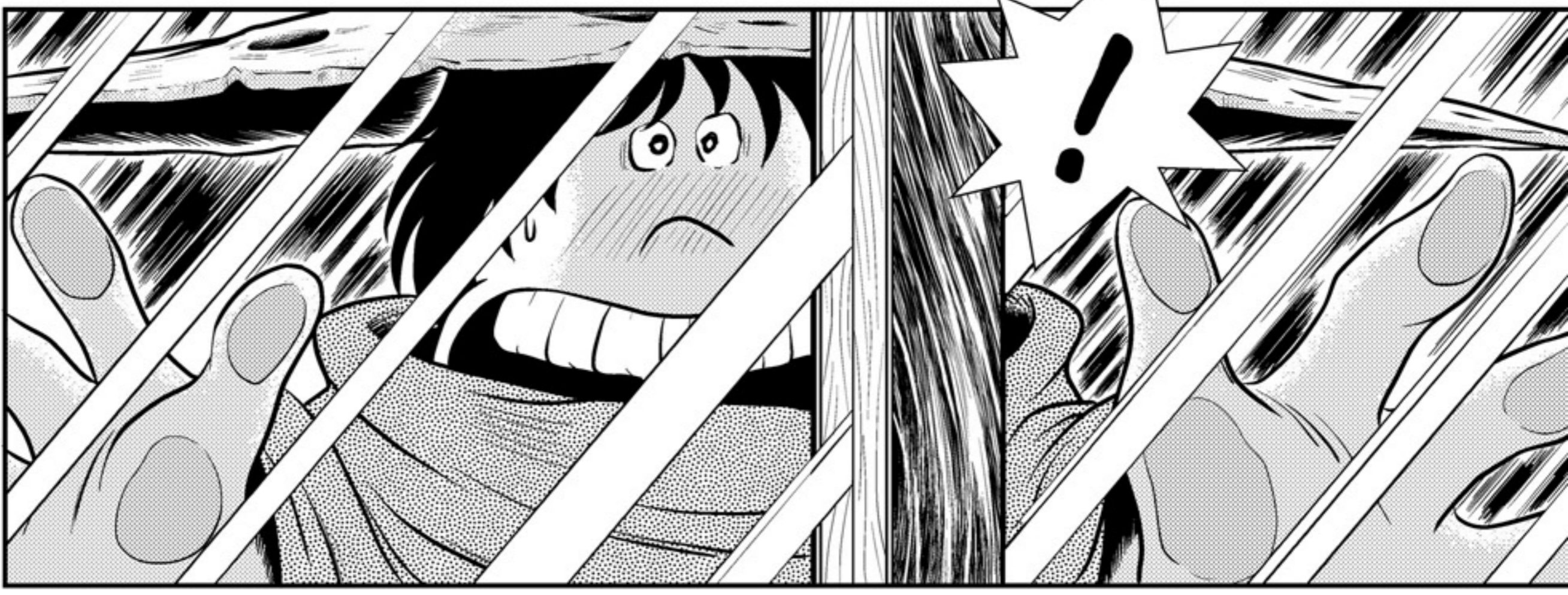
とんでもない  
エレベーター  
だ…

やれやれ…  
ひどい目に  
あった…  
やっと  
着いたぞ…

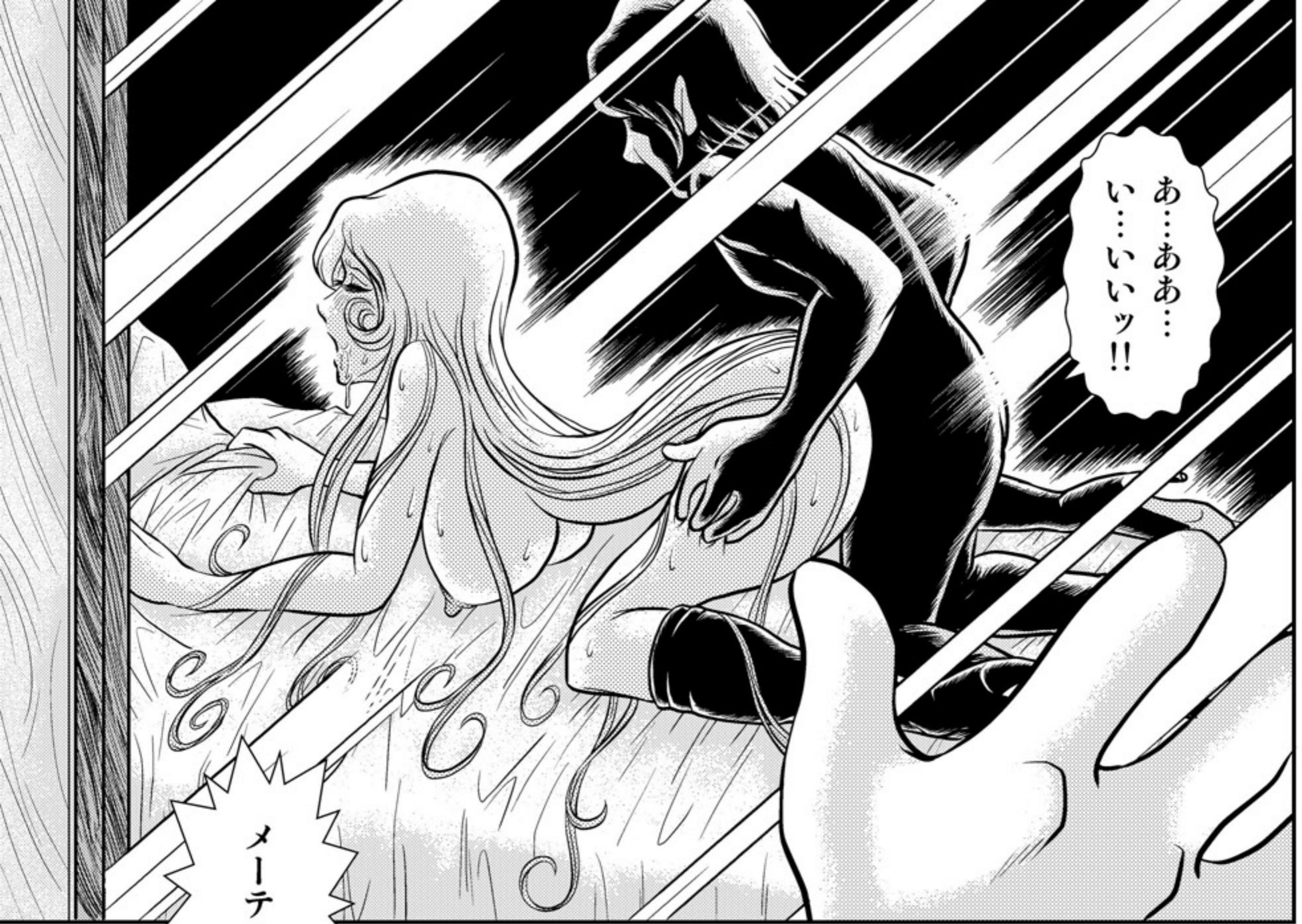


でも…  
ここは  
どこだ!?

アア…  
イイツ…





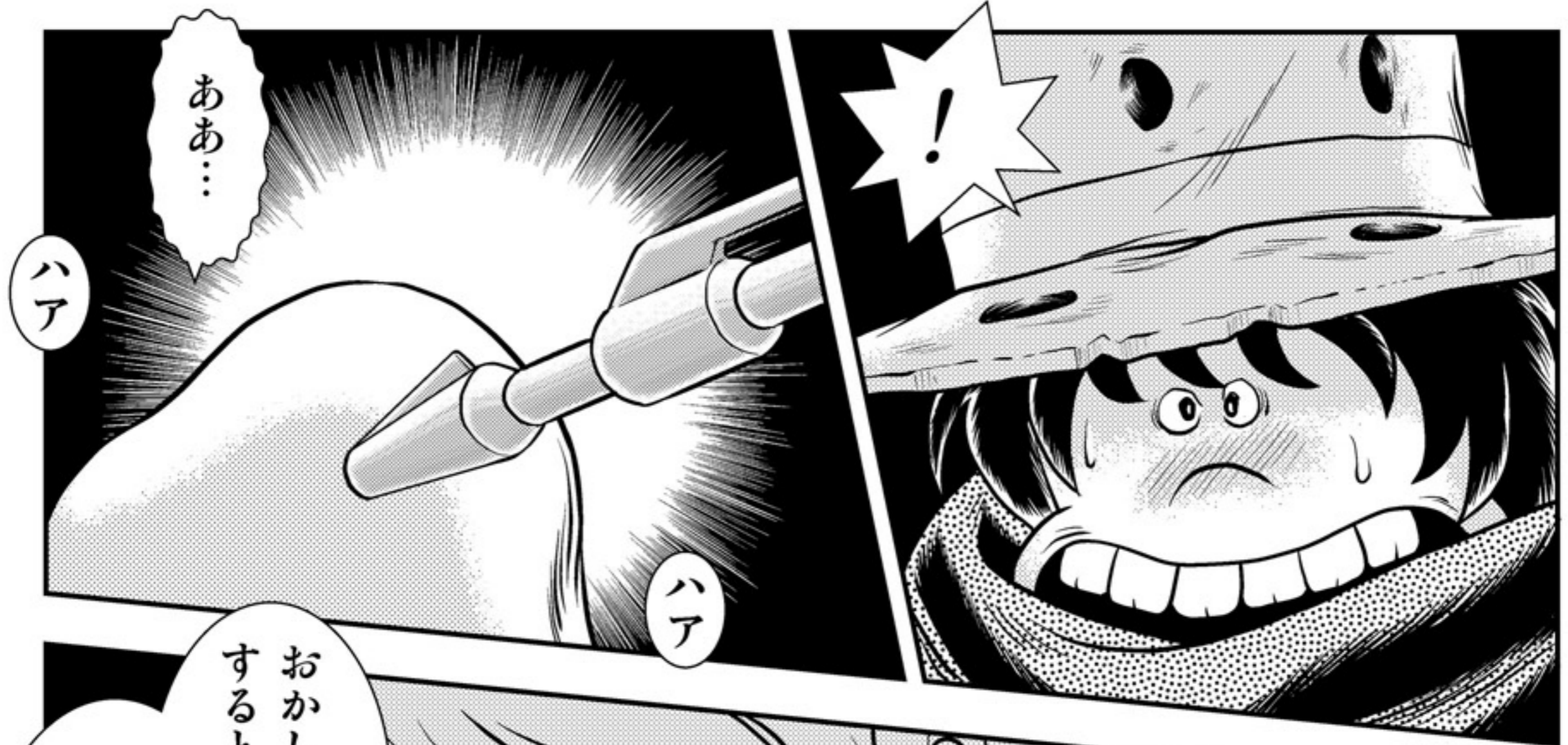


あ…ああ…  
い…い…いッ!!

メーテル!!



メーテルッ!!



ああ…

ハア

ハア



!

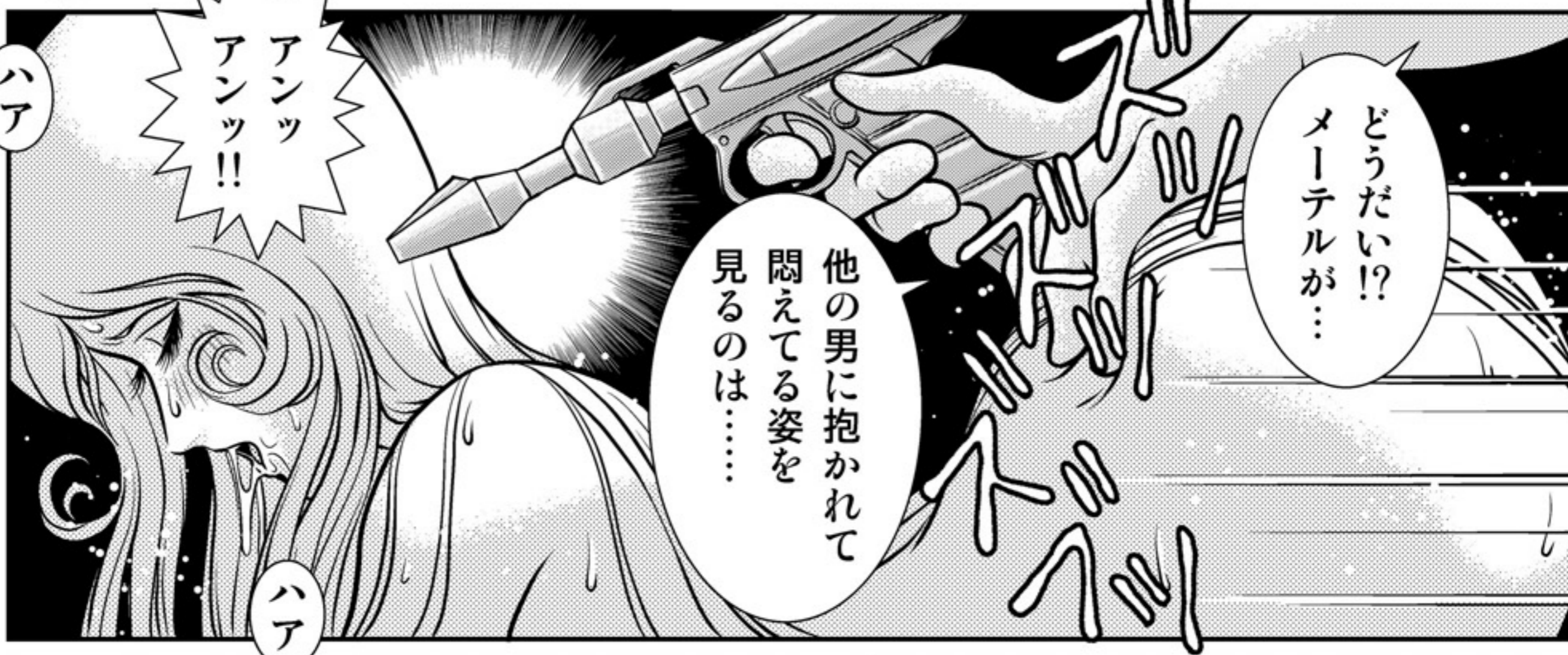


ようこそ  
鉄郎くん…

待って  
いたよ…

おかしなまねを  
すると…

メートルの命の  
保証はできない  
よ…



どうだい!?!  
メートルが…

他の男に抱かれて  
悶えてる姿を  
見るのは…

アンツ  
アンツ!!

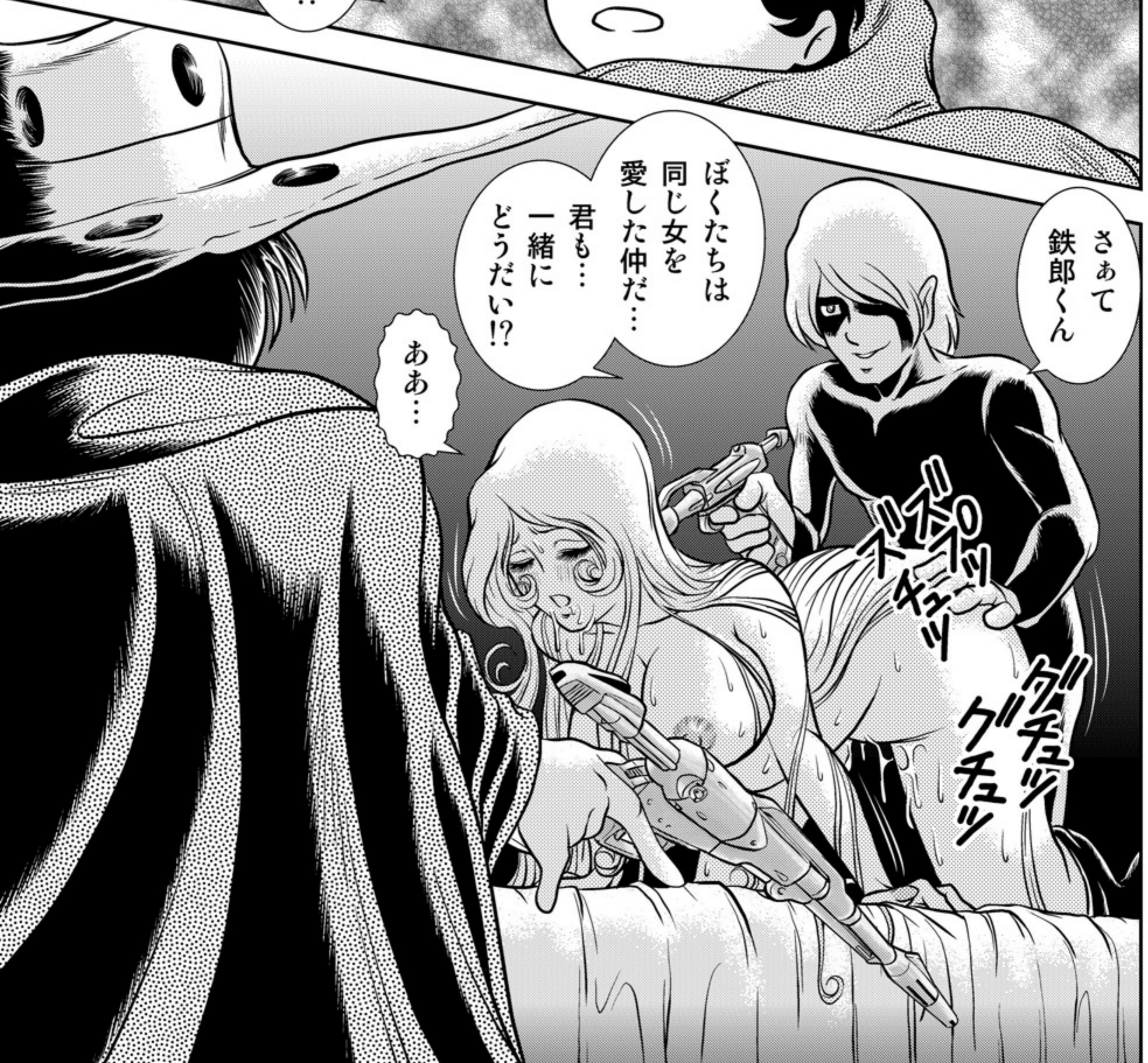
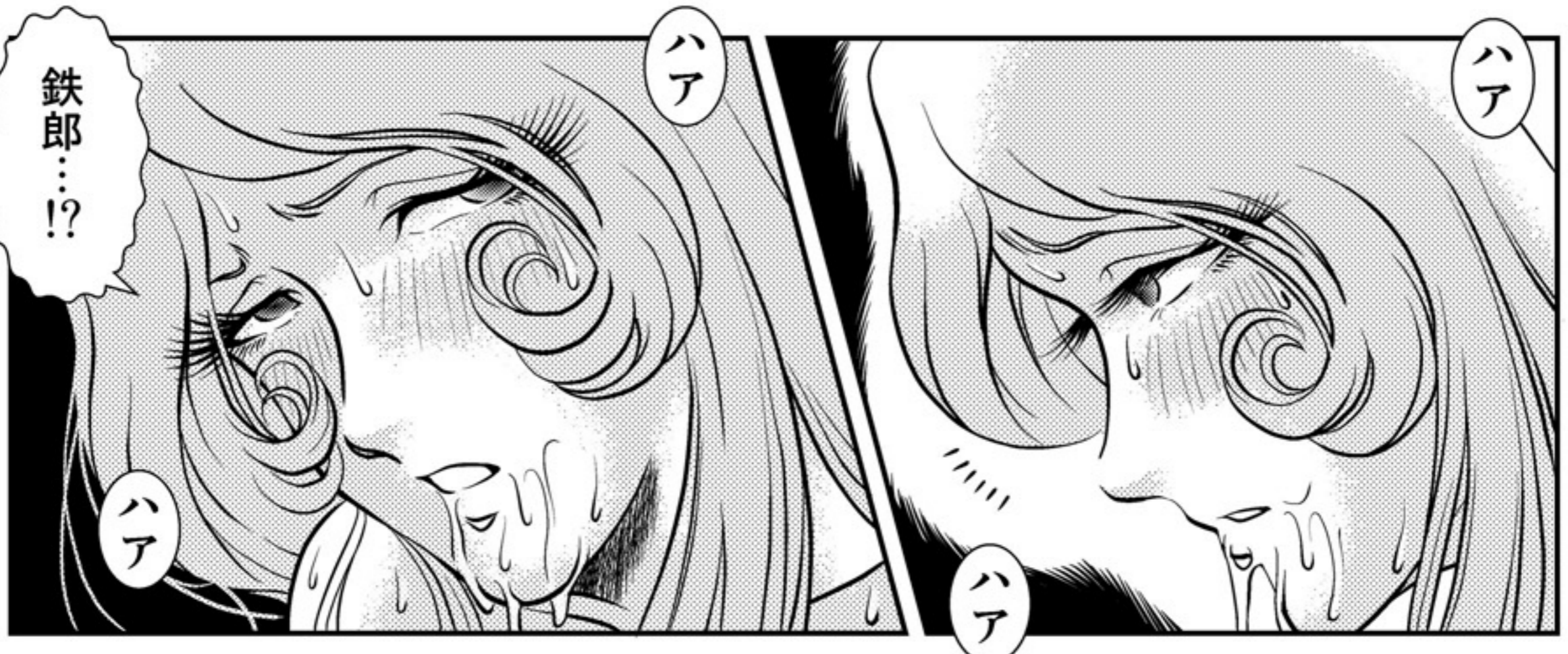
ハア

ハア



興奮する  
だろう…!?!

メートル!!



さあて 鉄郎くん

ぼくたちは 同じ女を 愛した仲だ...

君も... 一緒に どうだい!?

ああ...

ググググ

ググググ

鉄郎...!?

ハア

ハア

ハア

ハア

メーテル!!



鉄郎：  
あなたも  
一緒に：  
私を：  
犯して：

ハア

お願い：

ハア



メーテル

いったい：  
どうしちゃった  
んだよ：



メーテル：

ハア

ハア

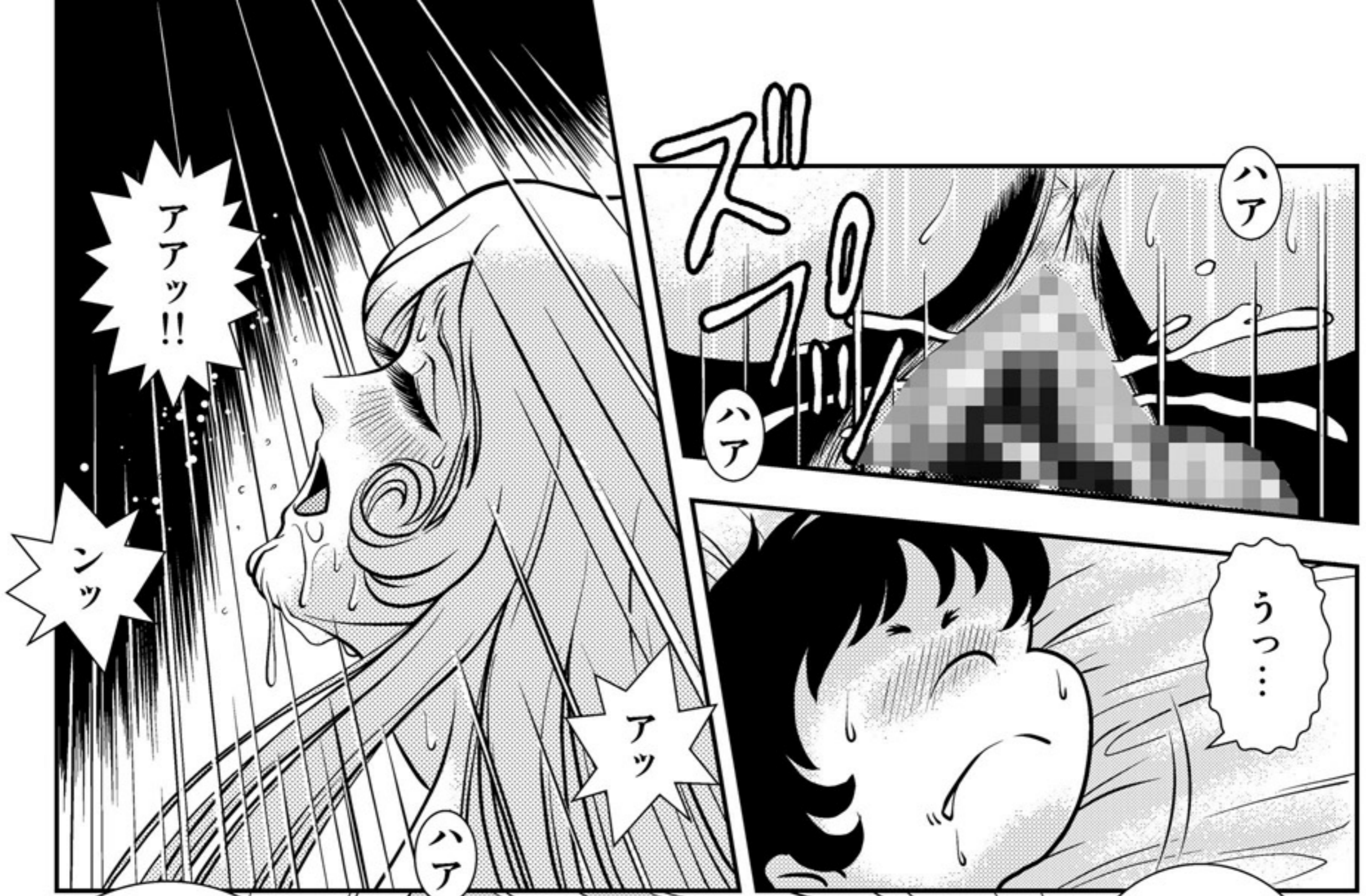


さあ：  
メーテル  
鉄郎くんを  
気持ちよくして  
あげたまえ：

ハア

は…はい…  
あ…ああ…

ハア



アアツ!!

ズ  
ズ  
ズ

ハア

ハア

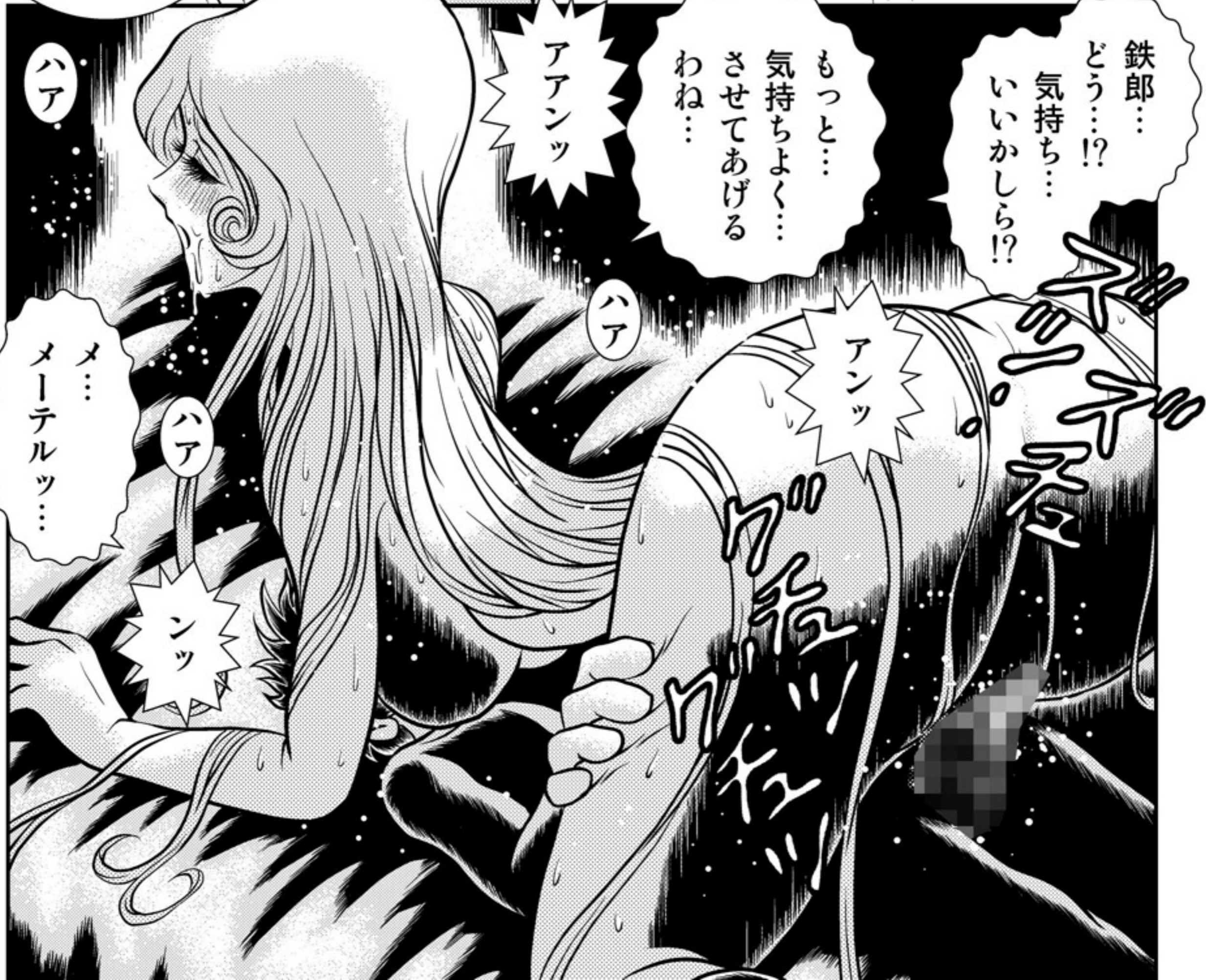
うっ…

アツ

ハア

その調子で  
腰を使って  
…

鉄郎くんを  
イかせて  
あげなさい  
メートル



ハア

アアンツ

もっと…  
気持ちよく…  
させてあげる  
わね…

鉄郎…  
どう…!?  
気持ち…  
いいかしら!?

ハア

アンツ

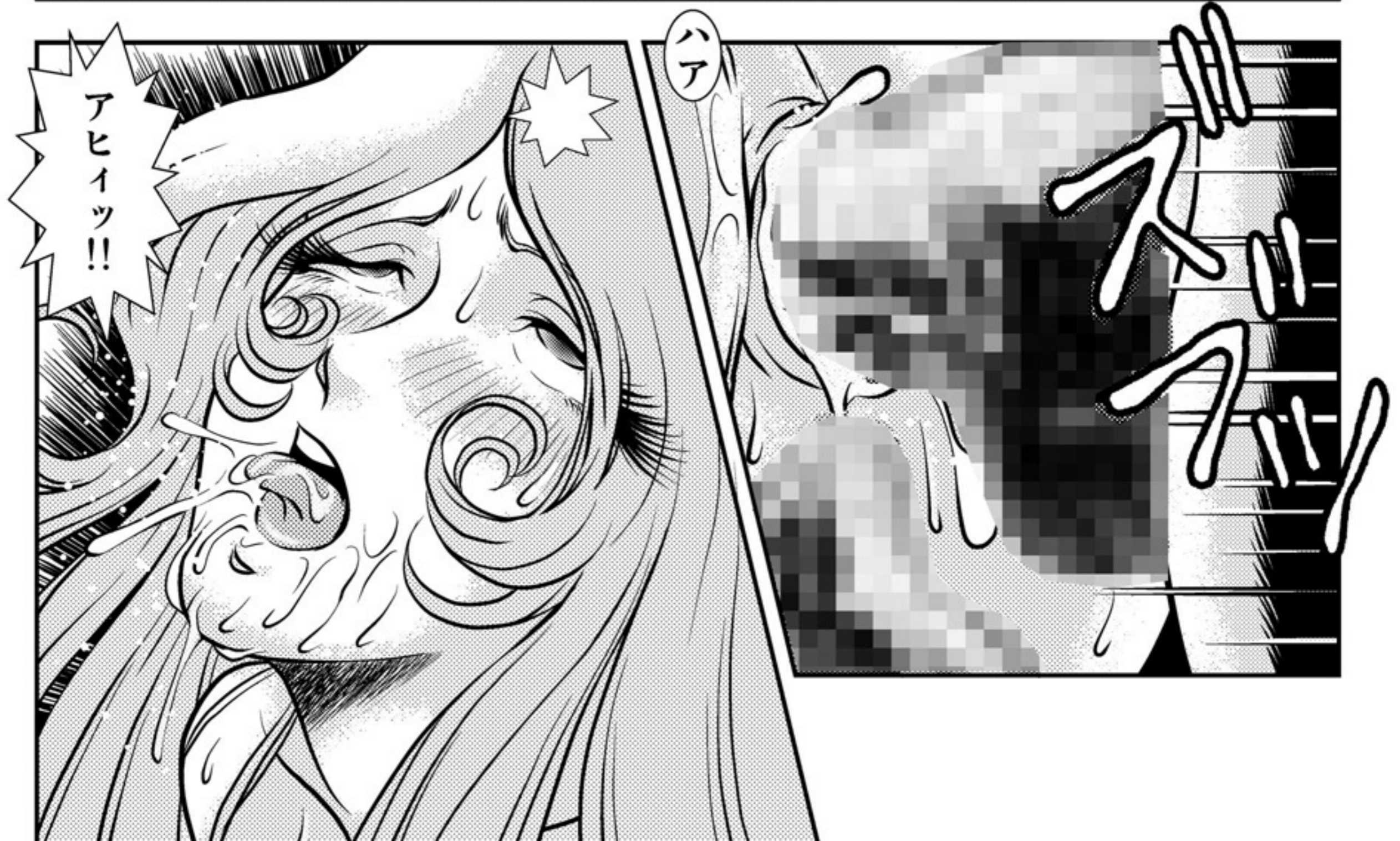
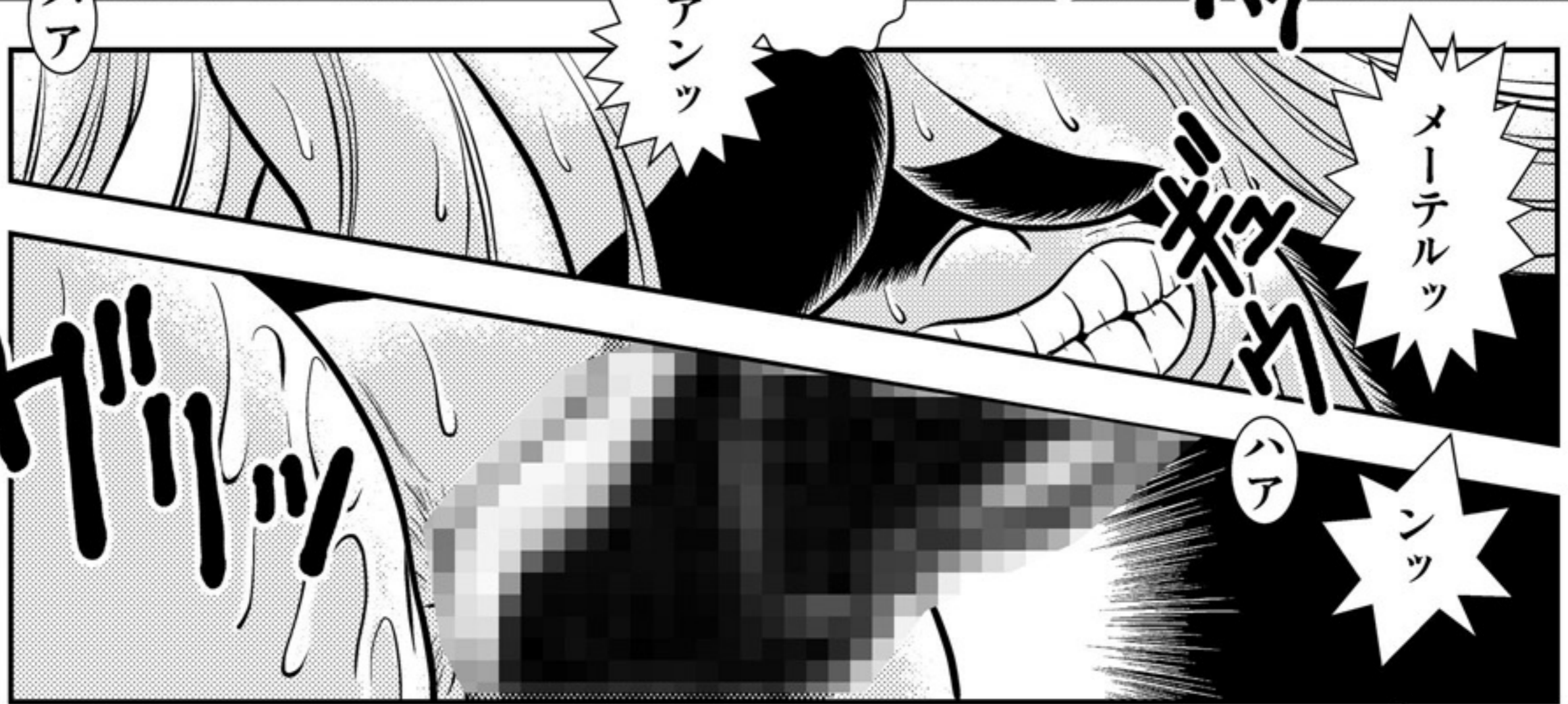
ズ  
ズ  
ズ

メ…  
メートルツ…

ハア

ンツ







ハア

アアンツ

ハア

ヒッ  
ああ...  
いいツ!!

ハア

あ...  
やツ!!

う...う...  
メーテルの中...  
いつもより...すごく  
気持ちいいよっ



ハア

ううっ...  
メーテル...  
もう...  
出ちやうよ!!

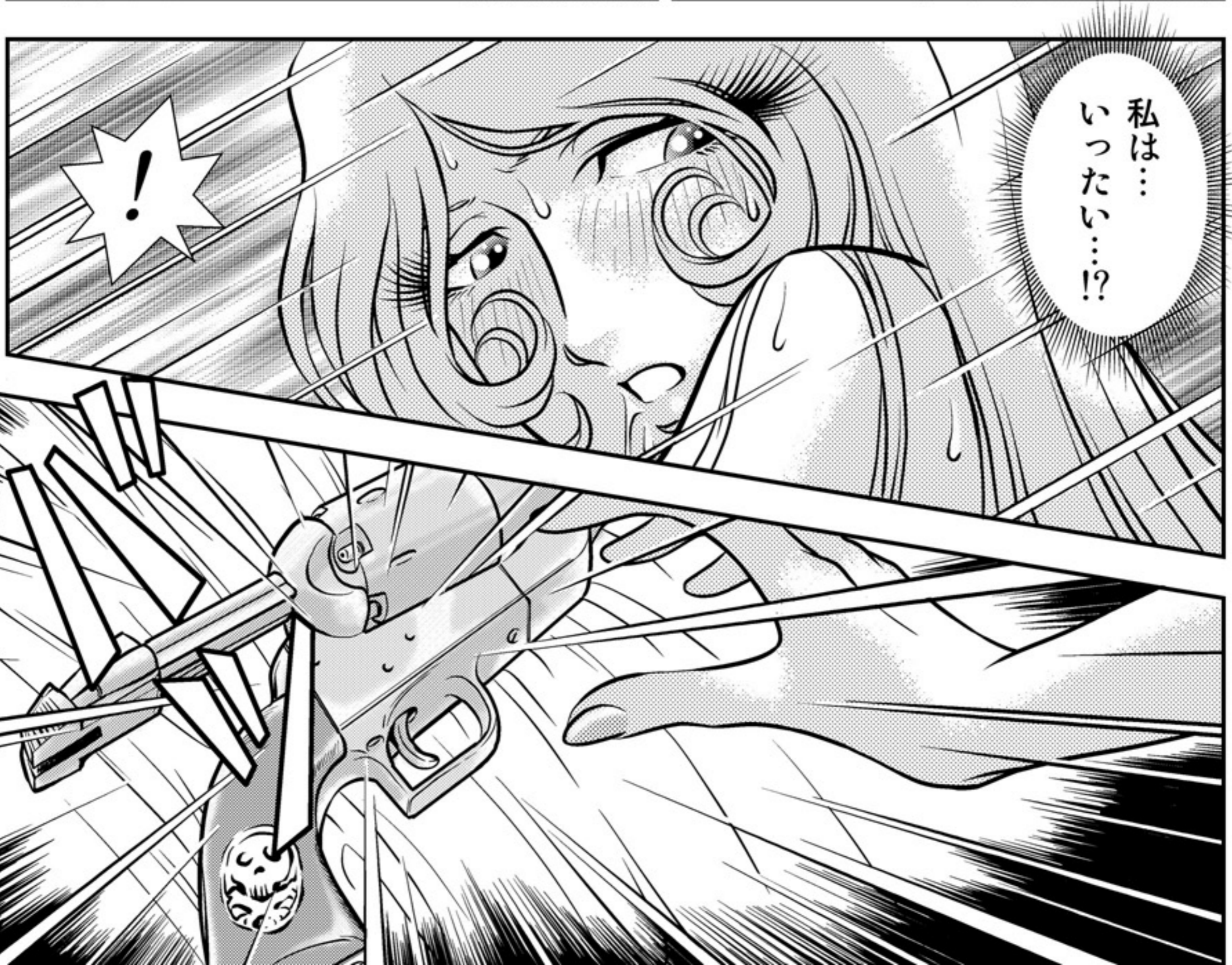
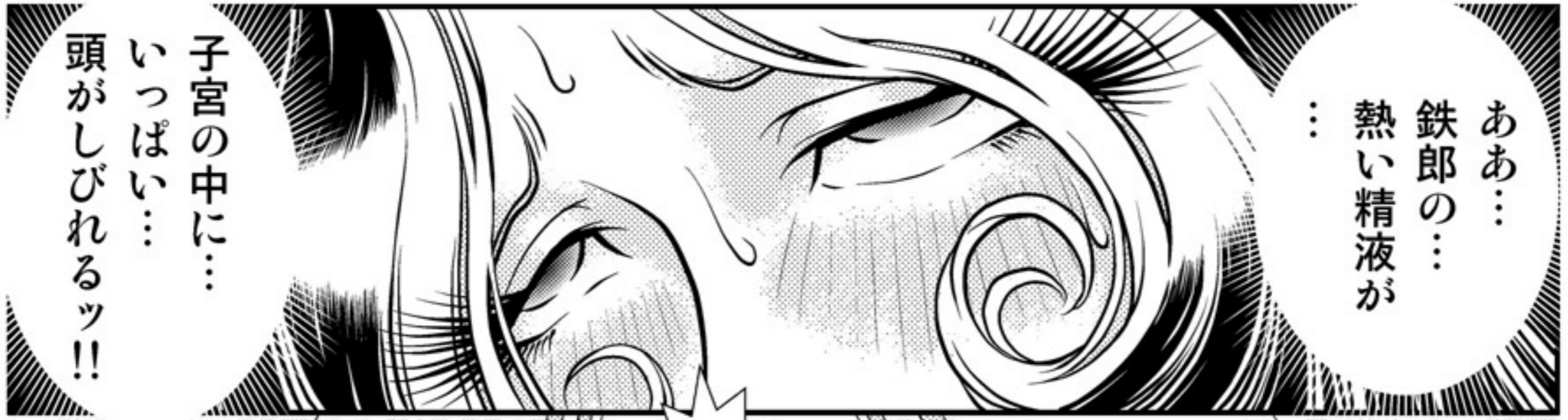
フルフルッ

ハア

アビッ

ハア







そこまでよ!!

よ...よせ  
メートル!!

何を...  
するんだ!?

愛してる  
このぼくを...  
撃てるものか!!

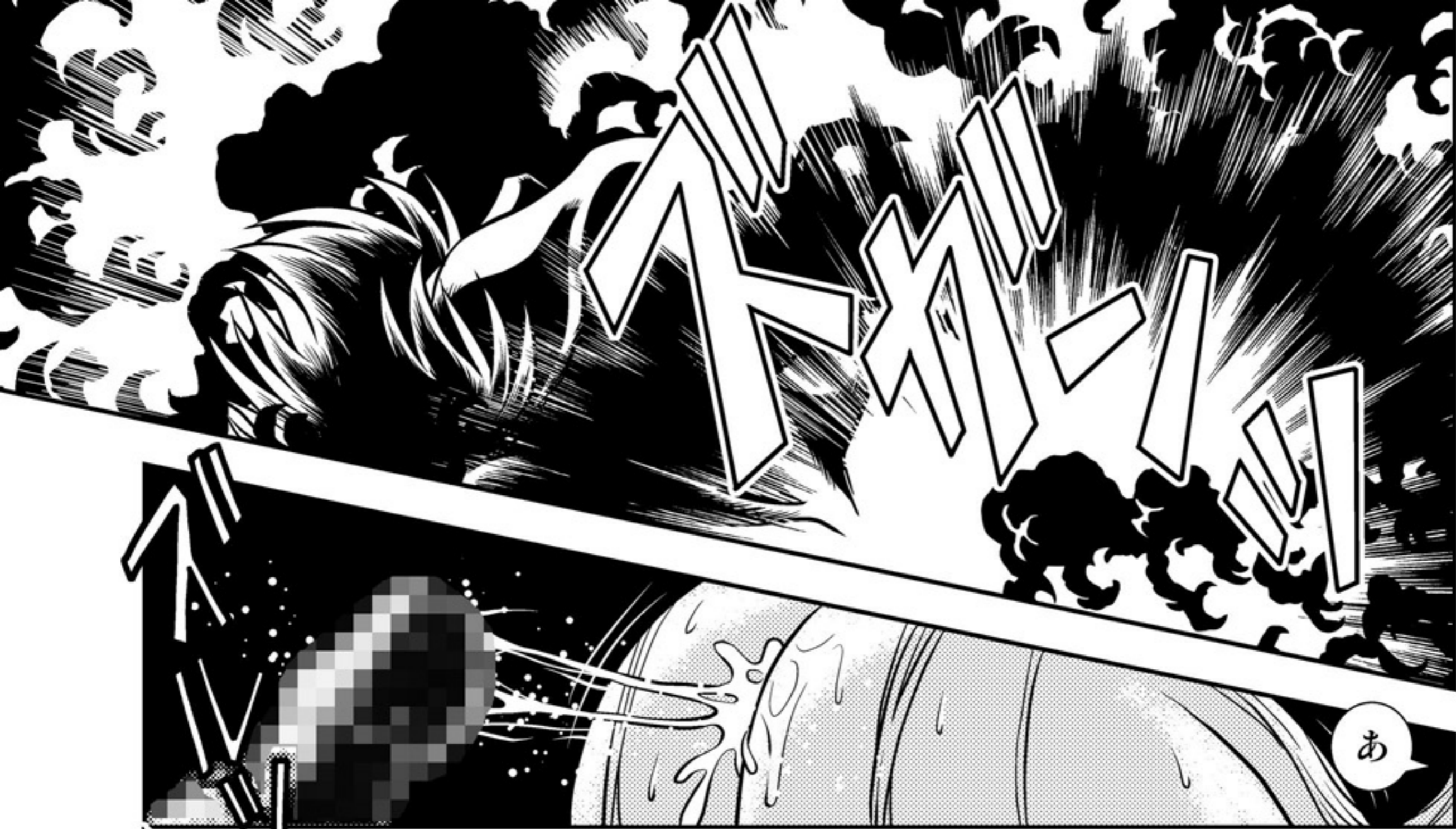
おあいにく  
さまね...

私は鉄郎に...  
身も心も捧げた女...

鉄郎以外の  
男の...

女になる  
つもりは  
なくってよ...

私の身体を  
奪った代償は  
高いわよ!!



あ



こいつ…  
機械化人間  
だったのか…



シュウ



鉄郎の精液が…  
子宮内に注がれた  
ショックで意識が  
戻ったんだわ…

でなければ…  
今頃…私は…  
キザルーナの…

ハア

ハア

ハア



鉄郎は…  
四次元  
エレベーターで

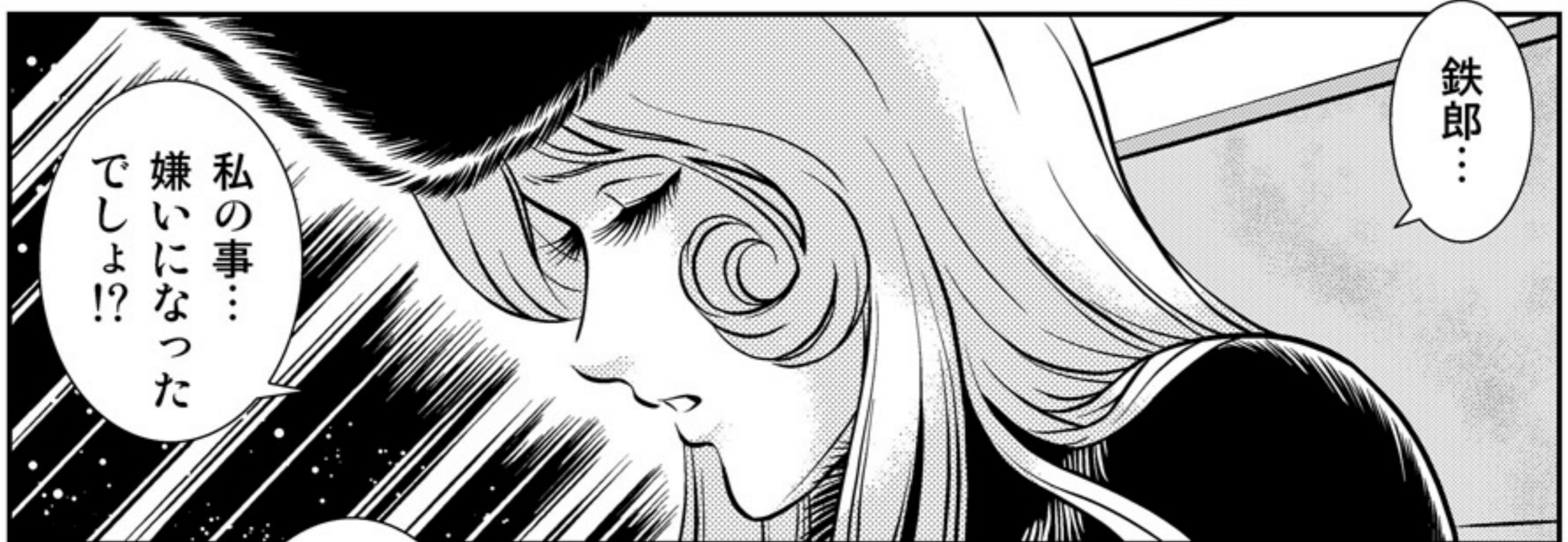
鉄郎の心の中の  
願望の世界へ  
行ったの…



キザルーナは  
他人の夢の中に  
人間を引きずり  
こんで…

もて遊ぶのが  
趣味の機械化人…

……



鉄郎…

私の事…  
嫌いになった  
でしょ!?



メーテル…

メーテルが  
悪いわけじゃ  
ないよ…

ぼくが…勝手に  
エレベーターに  
乗ったんだし…

どんな事が  
あっても…  
ぼくはメーテルを  
愛してるよ…

ホント!?  
鉄郎…

うれしい!!

本当の事いうとね  
キザルーナに  
抱かれてる時の記憶は  
ないのに…

身体はしっかり  
覚えてるのよ…

ウフ…

鉄郎に助けて  
もらった時は  
途中だったから…

まだ身体の疼きが  
おさまってないの…

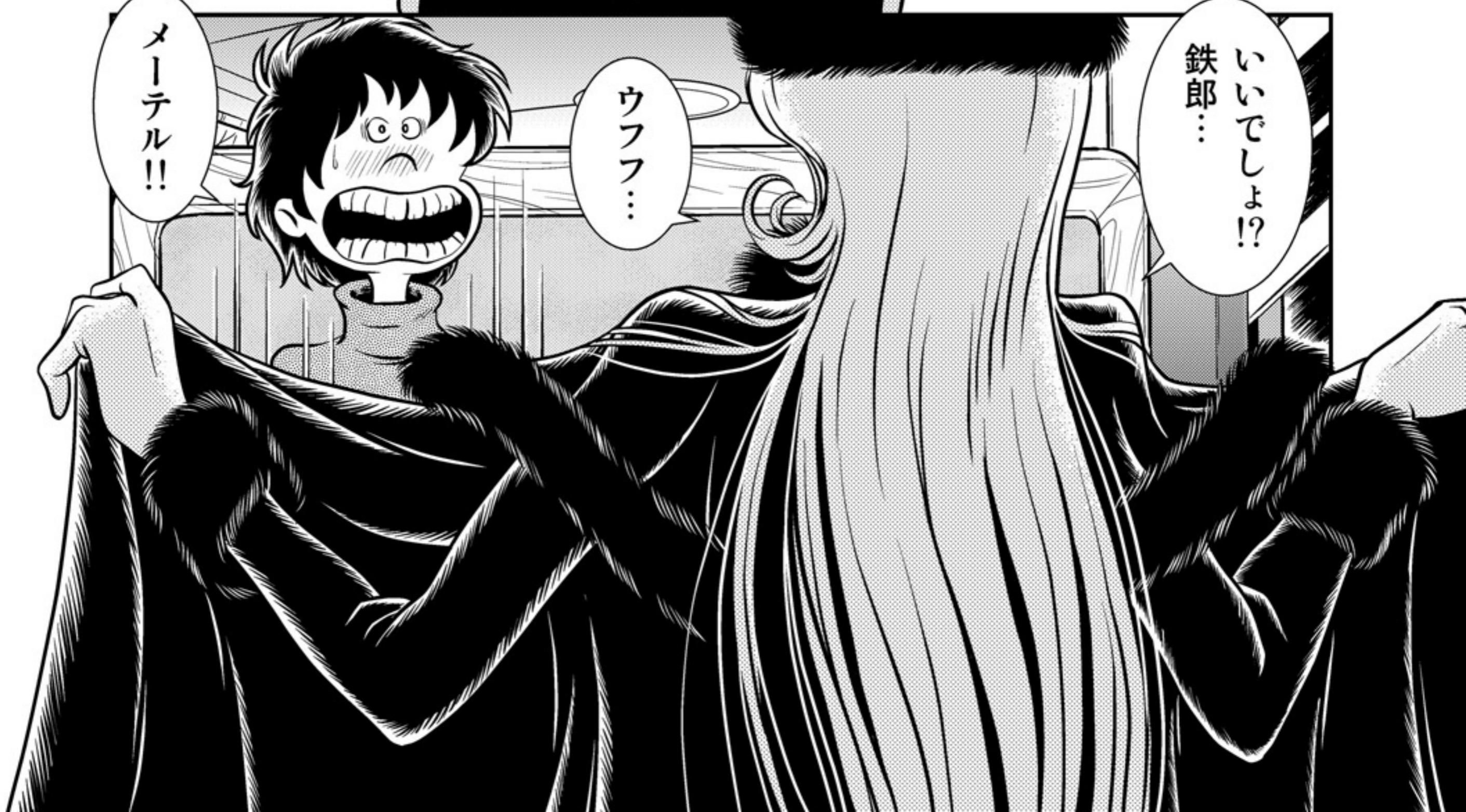
わかる!?

えっ!?

いいでしょ!?  
鉄郎…

ウフフ…

メートル!!





たつぷりと  
お願いね…

責任を…  
取ってちょうだい  
ウフフフ…

END











## あとがき...

このたびはMaetelStory8をお買い上げいただき、ありがとうございます。  
このシリーズも今回で8作目となりました。

今回、描いている途中で気がついたミスがあるのですが、時すでに遅しと直すタイミングを逸してしまい、やむなくそのまま完成させました。読んでいる途中で、気がつかれた人もいるかもしれませんが。

何かと言いますと、鉄郎がエレベーターに乗ったことに気づいたメーテルが、戻ってきた空のエレベーターの中で「帽子とマント」を見つけ、以降持ち歩いているのですが。その後、鉄郎が登場するときに、なぜか「帽子とマント」を身につけているのです。もちろん原作では帽子とマントは描かれずに登場しています。単純なうっかりミスです。

次回作はまだ白紙状態ですが、引き続き頑張って描いてみようと思います。

それまでしばらくお待ちくださいませ。

ありがとうございました。

でわ。

かぐや姫





*Kaguyahime*